もう一人の英雄

千

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
もう一人の英雄

【Ｎコード】
Ｎ０８２０ＢＡ

【作者名】
千

【あらすじ】
主人公の黒鉄爽児はある日遊戯王ＧＸの世界に転生する。そこで様々な仲間と出会い、遊城十代とともに後に英雄と語り継がれる決闘者に成長していく。初投稿です。文才０の駄作者ですがよろしくお願いします

VSクロノス（前書き）

はじめまして千です

記念すべき第一話はクロノス教諭との決闘

それではお楽しみ下さい

VSクロノス

「爽児～早く寝なさい～」
1階からおふくろの声が聞こえてくる。
特にすることもないので明日に備えて寝るとするか。
やぁ俺は黒鉄爽児（くろがねそうじ）、転生者だ。
まぁ神様（笑）のミスで死んでお詫びとして転生させてもらったっていういつものパターンだ。
それで俺がどこに転生したかって？
それは・・・

「受験番号1番、デュエル場に上がってください」

そう、俺は遊戯王ＧＸの世界に転生したのだ。
何でＧＸの世界を選んだかは遊戯王シリーズで最も面白かったからだ。
全話見たので原作知識はばっちりだし正直俺はシンクロあまり好きじゃないし・・・
ま、いいか。えーと俺の相手は・・・

「これか～ら実技試験を始めるノ～ネ」

まさかのクロノス教諭。つーかこの人の顔間近で見ると面白すぎる。

「お願いします」

「「決闘」」

「先攻は私なノ～ネ、ドロ～」ニヤリ

「私は天使の施しを発動するノ～ネ。このカードの効果によって私はカードを3枚ドローし、手札からカードを2枚墓地に送るの～ネ。私は墓地にトロイホースと古代の機械兵士を墓地に送るノ～ネ」

外野が「クロノス教諭が手札事故？」とか騒ぎ出す。そうか、この世界はまだ墓地アドがそれほど重要視されてなかったのか。

「私は早すぎた埋葬を発動するノ～ネ。ライフを８００ポイント払うこと～で墓地にいるモンスター1体を特殊召喚しこのカードを装備するノ～ネ。私はトロイホースを召喚。」

クロノスのフィールドに木製の馬が出現する。

トロイホースＡＴＫ１６００

「トロイホースは地属性モンスターの生贄に使用する場合2体分の生贄とすることができるノ～ネ。私はトロイホースを生贄に古代の機械巨人を生贄召喚するノ～ネ」

トロイホースが光に包まれて消えると同時に巨大なモンスターがフィールドに出てくる。

古代の機械巨人ＡＴＫ３０００

「これで私はターンエンドなノ～ネ。」

外野が「終わったな。」とかうるさいが現世では攻撃力３０００のモンスターが1ターン目で出てくるのは全然珍しくない。けど特殊召喚できない古代の機械巨人を1ターンで出すのはちょっとすごい

かな。

「さすがクロノス教諭、すごいな。」

「余裕ぶっても無駄なノ～ネ。サレンダーするなら今のうちなノ～ネ」

「誰がサレンダーなんてするか。俺のターン、ドロー」

俺は自分の手札を見る。よし、これならいける。

「俺はバイス・ドラゴンを手札から特殊召喚する。このモンスターは相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合に攻撃力と守備力を半分にして手札から特殊召喚できる。そして俺はアックス・ドラゴニュートを召喚する。」

バイス・ドラゴンＡＴＫ１０００

アックス・ドラゴニュートＡＴＫ２０００

爽児のフィールドに2体の竜が並ぶ。

「そして俺は魔法カードドラゴニック・タクティクスを発動。自分フィールド上のドラゴン族モンスター2体を生贄にデッキからレベル８のドラゴン族モンスターを特殊召喚する。来い、ダークエンド・ドラゴン！！」

2体の竜がフィールドから消え、漆黒の竜がフィールドに舞い降りる。

ダークエンド・ドラゴン　ＡＴＫ２６００

「ふん、その程度のモンスターじゃ私の古代の機械巨人の足元にも及ばないノ～ネ」

「それはどうかな。ダークエンドの効果発動。ダーク・イヴァポレーション！！！」

爽児が合図した途端、古代の機械巨人が闇の中に吸い込まれていく。

「一体どうなってるノーネ！！？」

「ダークエンドは１ターンに１度攻撃力を５００ポイント下げることで相手のモンスター１体を墓地に送ることができる！！」

「ナンデス～トォ～！？」

「そしてもう先生のフィールドにモンスターはいない。ダークエンドでダイレクトアタック、ダーク・フォッグ！！！」

「パルメザンチ～ズ！！」

クロノスＬＰ４０００⇒１９００

「さらに俺は速攻魔法表裏一体を発動！俺の場のダークエンド・ドラゴンをデッキに戻し、デッキからライトエンド・ドラゴンを特殊召喚する！！」

ライトエンド・ドラゴンＡＴＫ２６００

「ライトエンドで先生にダイレクトアタック！シャイニングサプリメイション！！！」

「マンマミ～ア」

クロノスＬＰ１９００⇒０

「よっしゃぁ」

「この私が負けるなどありえないノ～ネ。」

「すげぇあのクロノス教諭に勝った」「それもワンターンキルだぞ」「ライフが１も減ってないのに」外野が騒ぎ出す。それもそうだろう。デュエルアカデミアの実技最高責任者のクロノス相手にワンターンキルの快挙を成し遂げたのだから。

〔むかつくけどさすがに不合格にするわけにはいけないノ～ネ。だけ～ど文句をつけてドロップアウト寮に入れてやるノ～ネ。ぐふふふ〕

クロノスが卑劣な考えをしている間に１人の男性が拍手をしながら爽児達に近づいてきた。そしてクロノスの顔つきが変わった。

「校長！？」

「最上級モンスターに立ち向かう勇気に冷静な判断、大変すばらしいデュエルでした。よって君はもちろん合格です。爽児君はオベリスク・ブルーに配属します。」

「まじっすか。やった〜！！」

「ぐぬぬぬぬ」

そうしてこの長い１日は終わった。

〜余談〜

そのあとクロノスは爽児に負けたイライラを他の受験生にぶつけ容赦なく３０人近くの受験生を不合格にしていったが調子に乗って十代と決闘して負けることになった。

VSクロノス（後書き）

第一話どうでしたか？
他の転生物でよく見る
トロイホース⇒二重召喚⇒古代の機械巨人
をちょっと工夫してみましたが正直どっちでもいいですね。

次回は爽児が十代とデュエルする話を書きたいと思います。

さようなら～ｂｙ千～

VS十代（前編）（前書き）

こんにちは千です。

前に予告したとおりに今回は十代とのデュエルを書きます。

それではどうぞ

VS十代（前編）

「ガッチャ！楽しいデュエルだったぜ、先生！！」

出番が最初だっただけに爽児は観客席でいろんなデュエルをみていた。

あの状況であのチートじみたドローはすごいな。クロノスが俺に負けたときよりいらいらしてる。

〜まぁ面白いものが見れたな〜

そう思って帰ろうとしたら

「お〜いそこのあんた〜」

声が聞こえる方向に振り向くと十代、翔、三沢がこっちに向かって走ってきていた。

「呼んでるのは俺か受験番号１１０番？」

「あぁ、俺は遊城十代」

「僕は丸藤翔っス」

「俺は三沢大地だ。君のデュエルは見させてもらった。」

「そうか。俺は黒鉄爽児だ。」

「聞いたぜ。お前あのクロノス先生に1キルしたんだろ？なぁ俺と

デュエルしようぜ」

遅かれ早かれこうなるとは思っていたけどまさか今日あっていきなりとはな。

まぁ断る理由もないしいいか。

「いいぜ。俺もお前のＨＥＲＯデッキを見てみたいしな。」

そういうと二人はデュエルディスクを構えた。

「「決闘」」

爽児ＬＰ４０００

十代ＬＰ４０００

「先攻は貰うぜ。俺のターン、ドロー！！」

いつも思うんだけど先攻後攻って早いもの勝ちで決めるのか？

先攻とれるように練習でもしよっかなぁ

ま、いいや集中。

「俺はＥ・ＨＥＲＯバブルマンを守備表示で召喚するぜ」

Ｅ・ＨＥＲＯバブルマンＤＥＦ　１２００（アニメ効果）

でたよ強欲な泡男。

「俺はバブルマンの効果を発動する。フィールド上に他のカードがない場合にこのモンスターの召喚に成功した場合、デッキからカー

ドを2枚ドローする。」

OCGじゃまったく使えないのにアニメだったらほぼ強欲な壺じゃねーか。しかもこの世界だったら表側守備表示で召喚できるからなおさらチートだな。

「俺は手札から融合を発動。フィールドのバブルマンと手札のE・HEROクレイマンを融合！来い、E・HEROマッドボールマンを召喚！！」

E・HEROマッドボールマンDEF　3000

十代のフィールドの球体の戦士が腕を組んで現われる。かの青眼の白龍すら破壊できないまさに鉄壁のモンスターだ。

「俺はカードを2枚伏せ、ターンエンドだ」

「俺のターン、ドロー！俺は手札断殺を発動。お互いのプレイヤーは手札を2枚墓地に送りカードを2枚ドローする。」

爽児と十代はカードを捨て、その枚数分ドローする。

「いきなり手札事故っすかね？」と翔

「いや、爽児のことだ。何か考えがあるはずだ。」と三沢

「俺はバイス・ドラゴンを攻守を半分にして手札から特殊召喚する。そしてバイスドラゴンを生贄にストロング・ウィンド・ドラゴンを召喚する！」

ストロング・ウィンド・ドラゴンＡＴＫ　２４００

バイス・ドラゴンが消えて突風が吹き、新たな龍が爽児の場に現われる。

「このモンスターは生贄にささげたモンスターの攻撃力の半分の数値を自身の攻撃力に加算する。

ストロング・ウィンド・ドラゴン　２４００⇒３４００

「マッドボールマンを上回ったッス」

「バトル！ストロング・ウィンド・ドラゴンでＥ・ＨＥＲＯマッドボールマンを攻撃！ストロングハリケーン！！！」

ストロング・ウィンド・ドラゴンが繰り出した竜巻がマッドボールマンもろとも十代を襲う。

「そしてこのモンスターが相手の守備表示モンスターを戦闘によって破壊したとき攻撃力と守備力の差分の戦闘ダメージ与える。」

「うわぁ！」

十代ＬＰ４０００⇒３６００

「カードを２枚セットしターンエンドだ。」

「へへへ、楽しいぜ爽児。このデュエルすげぇ楽しいよ。」

十代が笑顔で爽児に話しかけてきた。

「あぁ、俺も楽しいぜ。」

爽児も笑顔で答える。

「こんな楽しいデュエルに負けるわけには行かないな。俺のターン、ドロー！！」

その場にいる全員にそのドローは輝いて見えた。

VS十代（前編）（後書き）

自分の文才のなさに絶望です。まじで。

それにしてもバブルマンは鬼畜ですね。フィールドにカードがなかったらすぐ2枚ドローなうえアニメでは表側守備表示でだせますからね～

次回は十代との決着を書くつもりです。

それでは千でした。さようなら

VS十代（後編）（前書き）

こんにちは千です。

今回は十代とのデュエル決着です。

どうぞお楽しみ下さい

VS十代（後編）

「俺のターン、ドロー」

十代
ＬＰ３６００
手札　３枚
魔法・罠　２枚セット
モンスター　なし

爽児
ＬＰ４０００
手札　１枚
魔法・罠　２枚セット
モンスター　ストロング・ウィンド・ドラゴンＡＴＫ　３４００

「俺は魔法カード命削りの宝札を発動。カードを５枚ドローし、５ターン後に手札を全て墓地に送る。」

「さらに融合回収を発動。墓地の融合と融合素材として墓地に送られたクレイマンを手札に加える。そして俺は手札に加えた融合を発動するぜ！俺は手札のＥ・ＨＥＲＯクレイマンとＥ・ＨＥＲＯスパークマンを融合する。来い、Ｅ・ＨＥＲＯサンダー・ジャイアント！！！」

Ｅ・ＨＥＲＯサンダージャイアントＡＴＫ　２４００

「俺は魔法カードＨ－ヒートハートを発動。サンダー・ジャイアントの攻撃力を５００ポイントアップさせ、貫通効果を与えるぜ」

Ｅ・ＨＥＲＯサンダー・ジャイアントＡＴＫ　２４００⇒２９００

「だけどストロング・ウィンド・ドラゴンの攻撃力は３４００。攻撃力がまだ足りないッス。」

あっ、そうか。確かサンダー・ジャイアントの初登場はあの偽ラブレター事件だからこいつの効果を知らないのか。

「あぁ、確かに攻撃力じゃサンダー・ジャイアントは敵わない。だけど俺はサンダー・ジャアントの効果を発動！元々の攻撃力がこのモンスターの攻撃力以下のモンスター１体を破壊する。ヴェイパー・スパーク！！」

サンダー・ジャイアントが放った雷撃がストロング・ウィンド・ドラゴンを直撃し、破壊する。

「ぐっ・・・」

〜そうか、アニメのサンダー・ジャイアントの効果は手札コストなしの強制効果だったな〜

「これで爽児、お前の場にモンスターはいない。サンダー・ジャイアントでダイレクトアタック！ボルティック・サンダー！！！」

サンダー・ジャイアントが放った雷が爽児を襲

わなかった。

「残念だったな十代。俺は罠カードガード・ブロックを発動した。俺が受ける戦闘ダメージを０にしてカードを１枚ドローする。」

「うまい、これで攻撃力の上がったサンダー・ジャイアントの攻撃を防ぎつつアドバンテージを稼いだぞ。」と三沢

「くっそー。通ったと思ったのにな。俺はターンを終了する。」

「俺のターン、ドロー」

「俺は墓地のミンゲイドラゴンの効果を発動する。」

「墓地からだとっ。いつの間に！」

「忘れたのか十代、１ターン目に俺は手札断殺でこのカードを墓地に送っといたんだ。そしてこのモンスターは自分フィールド上にモンスターが存在せず、自分の墓地のモンスターがドラゴン族だけだった場合スタンバイフェイズ時に墓地から特殊召喚できる。だがこの効果で特殊召喚したミンゲイドラゴンはフィールドから離れた場合ゲームから除外されるがな。」

ミンゲイドラゴンＤＥＦ　２００

翼を広げた首の長い小型の竜が爽児のフィールドに現われる。

「このモンスターはドラゴン族モンスターの生贄とする場合２体分の生贄とすることができる。俺はミンゲイドラゴンを生贄にダーク

エンド・ドラゴンを召喚する！」

ダークエンド・ドラゴンＡＴＫ　２６００

「ダークエンドの効果を発動！サンダー・ジャイアントは墓地で眠ってててもらう。ダーク・イヴァポレイション！！」

ダークエンド・ドラゴンＡＴＫ　２６００⇒２１００

「よし、ダークエンドでダイレクトアタック、ダーク・フォ「させるかよ、俺は罠カードヒーロー見参を発動するぜ。相手モンスターの攻撃宣言時、相手は手札を１枚選ぶ。そのカードがモンスターだった場合そのモンスターを特殊召喚できる。さぁ選べ爽児」・・俺は一番右のカードを選ぶ。」

爽児が指定したカードは・・・・

「よっしゃあ、俺はＥ・ＨＥＲＯエッジマンを特殊召喚するぜ！」

十代のフィールドに黄金の戦士が現われる。

「クソッ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロー。バトル、エッジマンでダークエンド・ドラゴンを攻撃、パワーエッジアタック！！」

「俺は罠カードドラゴン・エヴォリューションを発動。フィールドのドラゴン族モンスターを生贄にささげ、そのモンスターのレベル＋１のレベルを持つモンスターを手札から特殊召喚する。来いライトエンド・ドラゴン！！」

ライトエンド・ドラゴンＡＴＫ　２６００

「エッジマンと互角か・・・。だけど俺は攻撃を続ける、パワーエッジアタック！！」

「甘い、俺はライトエンドの効果を発動する！このモンスターの攻撃力を５００ポイント下げることで相手モンスターの攻撃力を１５００ポイント下げる！ライト・イクスパンション！！」

ライトエンドドラゴンＡＴＫ　２６００⇒２１００

Ｅ・ＨＥＲＯエッジマンＡＴＫ２６００⇒１１００

ライトエンド・ドラゴンが放った光線がエッジマンに直撃しエッジマンを弱体化させた。

「うっ！！」

「向かい打て、シャイニングサプリメイション！！」

「うわっ！！」

十代

ＬＰ３６００⇒２６００

「カードを1枚セットし、Ｅ・ＨＥＲＯフェザーマンを守備表示で召喚しターンエンドだ。」

Ｅ・ＨＥＲＯフェザーマンＤＥＦ　１０００

「俺のターン、ドロー。」

〜俺は攻撃の無力化をセットした。このターンは凌いでみせる。〜

「俺は墓地のミンゲイドラゴンの効果を発動！！」

「えっ、ミンゲイドラゴンはさっき除外されたんじゃないんスか？」

「翔、誰も俺の墓地にいるミンゲイドラゴンが１体だけなんていってないぞ。」

「まさか手札断殺で２枚のミンゲイドラゴンを墓地に・・」

「その通りだ三沢、来い、ミンゲイドラゴン！」

ミンゲイドラゴンＤＥＦ　２００

「俺も命削りの宝札を発動し、カードを５枚ドローする。十代、このデュエル俺の勝ちだ。速攻魔法カード竜の魔眼発動。自分フィールド上のドラゴン族モンスターの数だけ相手の魔法・罠カードを破壊する。」

十代の伏せた攻撃の無力化とアナザー・フュージョンが破壊される。

「そして俺はミンゲイドラゴンを生贄にささげ、俺の最強の切り札、光と闇の竜を召喚する！！」

光と闇の竜　ＡＴＫ　２８００

ミンゲイドラゴンが消えると同時に直視できないほどの眩しく美しい竜がフィールドに舞い降りる。

「すげぇ、すげぇよ爽児！こんなモンスターを召喚するなんて、お前本当に最高だぜ！」

「あぁ、このデュエルはとても楽しかった。が、俺の勝ちだ。ライトエンドでフェザーマンを攻撃、シャイニングサプリメイション！！」

「グッ！」

「これで終わりだ。光と闇の竜でダイレクトアタック、シャイニングブレス！！！！」

十代
２６００⇒０

こうして二人のデュエルは爽児の勝利で終わった。

ＶＳ十代（後編）（後書き）

はい、結局爽児の勝ちで終わりました。十代ファンの皆さんゴメンね。

今更ですがライトエンド・ドラゴンとダークエンド・ドラゴンは漫画ＧＸと同じものだと考えてください。あとドラゴン・エヴォリューションや竜の魔眼等漫画カードもバンバン使っていくので、「あれ、こんなカードあったっけ」みたいなことがあったら未ＯＣＧカードｗｉｋｉで調べてください。作者は基本そこから選んでます。

あとお気に入り登録してくださった方々本当にありがとうございます。質問、アドバイス等もあったら遠慮なく言ってください。

次はデュエルアカデミア入学と万丈目に絡まれる話を書きます。

それではさようなら

VSオベリスクのバカAとBとC（前書き）

こんにちは千です。

まずお気に入り登録してくれた方々ありがとうございました。
これからも頑張ります。

あと今回から『今回の最強カード』の企画を始めます。
暇な人は最後に乗ってるからぜひ見てください。

それではお楽しみ下さい

VSオベリスクのバカAとBとC

「光と闇の竜の攻撃、シャイニングブレス！！！」

「うわぁぁぁぁ」

十代　ＬＰ　２６００⇒０

十代のライフが０になった瞬間お互いのソリッドヴィジョンが消える。

「くっそー負けちまったか。」

「惜しかったな。俺がもし竜の魔眼を引かなかったらお前はこのターンは生き延びたかも知れないのにな。」

「あぁ、けどすっげぇ楽しかったぜ。もう一回やろうぜ！」

このデュエル馬鹿は・・・

「待ってくれ、俺ともデュエルしてくれないか？」

「ぼ、僕もやりたいッス。」

「悪いな、けど今日は疲れた。アカデミアについたらまたやろうぜ。」

「本当か？約束だぞ。」

「あぁ、俺は約束は絶対守るからな。楽しみにしてるぜ。」

こうして爽児と十代の初対決は爽児の勝ちで終わった。

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

それから数週間後、アカデミアから正式に合格通知が届いた。勿論俺は合格してて、校長先生の言ってた通りオベリスク・ブルーに所属することになった。

「じゃあいってらっしゃい爽児。お母さんは船着場まで送ってあげれないけどいつもお家で爽児のこと応援してるからね。がんばってらっしゃい。」

母親から温かい言葉を貰って俺は家をあとにした。

そのあとは面倒だから省略する。爽児は人生ではじめて船に乗って、酔って死にそうになり、アカデミアに着いたら校長の長い話を聞かされるという感じだ。

「それではこれで入学式は終わりだ。生徒は各々が指定された寮に行き、先生の指示に従って荷物を置くこと。尚7時から新入生歓迎パーティを開催するので遅れないように。解散。」

「すげぇ。広すぎだろこの部屋。」

現在爽児はオベリスク・ブルー寮の一室、爽児の部屋、にいる。
まるで高級ホテルのような部屋には最新型のパソコンやでかいテレ

ビ、ふかふかのベッドがあった。
部屋を一通り見たあと爽児は荷物を置いてベッドで寝転がっていた。
すると

ピピピピピ

「おっＰＤＡが鳴ってる。」

ＰＤＡとはアカデミアの生徒に支給される携帯電話のようなもので、生徒間の通話やメールは勿論、先生からの連絡や辞書、カードの資料、学園内の地図などがある優れた機械だ。

「ＦＲＯＭ先生
7時の新入生歓迎会まであと２０分なので遅れないように。
場所はオベリスク・ブルー寮のホール。
尚新入生との交流を深めるためにデュエル大会をやるので各自デッキを持参するように。
以上。」

「あと２０分か・・。どうせ早く行っても暇だろうからちょっと外の空気を吸ってくるか。」

こんな感じで爽児は外に出て・・・・・・・・・・

早速絡まれるのであった。出たサンダー＋その取り巻き・・
「貴様が黒鉄爽児か。まぐれとは言えどもあのクロノス教諭を1キルしたデュエリストは。」
わざわざ「まぐれ」の部分を強調するあたりが腹立つな。

「そうだがお前は誰だ？」

「おぉと失礼。俺の名前は万丈目準だ。俺様が貴様に声をかけた理由はひとつ。俺達の一緒にこの学園をよりよい学園にする計画の協力者とならないか？」

どうせろくでもない計画なんだろうけど一応聞いてみるか。

「へぇ、面白そうだな。一体どんな計画だ？」

「良くぞ聞いてくれた。デュエルアカデミアには３つの階級が存在する。我らが選ばれしエリートのブルー、デュエルの腕も勉学も中途半端なイエロー、あらゆるものに落ちこぼれているレッドの３つだ。なぜ我らがエリートがこんなドロップアウト共と学園生活を送らなければならないのだ。そこで考えた。邪魔者は排除すればいいだけだ。エリートではないレッドやイエローを学校から追い出し、この学校をエリートの学園にすればいいのだ。どうだ、黒鉄爽児、お前もこの計画の協力者とな r「断る。」・・・何だと？」

「断るって言ったんだ。確かにイエローやレッドはブルーに比べて劣っているものがあるかもしれない。だからって学園から排除する？寝言は寝てから言え馬鹿野郎。」

「何だと」

「てめぇ」

「言わせておけば」

「うるせぇよ。それにお前が落ちこぼれだというレッドやイエローに俺が知ってる中で一人ずつお前らなんか瞬殺するデュエリストを俺は知ってるぞ。」

「「「あんだとぉ」」」

「待てお前ら。聞いてみようか、お前がそこまで言う落ちこぼれのことを。」

「イエローの三沢大地にレッドの遊城十代だ。おっ噂をすれば。おーい、十代！」

偶然そこには道に迷った十代と翔がいた。

「おー爽児。助かった～。あのさレッド寮への行き方教えてくんねぇか？」

「ふん、こんな道も分からないような奴が俺達を瞬殺だと？笑わせる。レッド寮はここから南に真っ直ぐいって灯台が見えたら右折すればすぐ見える。」

地味に道案内した。もしかしてこいつ意外といい奴なのか？

「おぉ、サンキュー。じゃあな爽児。約束覚えてるよな。」

「あぁ、勿論だ。」

「・・・・・ちょっと待てぇぇぇぇ！」

「うぉ、どうした万丈目」

「万丈目『さん』だ。おい遊城十代。貴様今ここで俺様とデュエルしろ。貴様らにエリートと落ちこぼれの格の違いを見せつけたやる。」

「デュエルはいつでも大歓迎だぜ」

「「決闘「そこまでよ」」」

声がした森の方向を向くとそこに明日香がいた。

〜すげぇ美人だな。だけどこいついつから居たんだ?〜

「黒鉄君あなた今私の影が薄いって思ったでしょ。」

〜何で分かったんだ?〜

「図星のようね」

「天上院君、今この落ちこぼれにデュエルアカデミアの厳しさを叩き込んでやるところだったんだ。邪魔しないでくれるかな。」

「あなた達デュエルするのはいいけど新入生歓迎会まであと5分よ。」

「やべぇ、じゃあな万丈目、爽児。行くぞ翔!」

「僕台詞1つもなかったッス」

あっ翔居たんだ。

「万丈目『さん』だ！！俺らも行くぞ。」

「「「はい、万丈目さん」」」

「ありがとな、えーと・・・」

一応初対面なので知らない振りをする。

「天上院明日香よ。明日香って呼んで頂戴。」

「分かった。じゃ俺も爽児って呼んでくれ。苗字で呼ばれると違和感がある。けど何で明日香は俺のこと知ってるんだ？」

なんでだろう。普通に質問しただけのにため息つかれた。

「あなた自分がどれだけ目立ってるか知らないの？あのクロノス教諭を1キルして、その日に同じくクロノス教諭に勝った遊城十代にノーダメージで勝利して、それにその容姿・・」

俺って人気なんだな。最後のはよく分かんないけど。

「とりあえず万丈目君には気をつけたほうがいいわよ。彼は自分がエリートだって豪語してるけど、口だけではないからね。デュエルの腕もすごいし、あの万丈目グループの三男だしね。」

明日香って情報通なんだな。

「ありがとう、気をつけておくよ。」

こんな感じで時間をつぶし、新入生歓迎パーティには滑り込みセーフでさらに目立ってしまった。デュエル大会では勿論優勝したぜ。
だけどたくさんの生徒（主に女子）からメアド聞かれたのは俺が教諭を１キルしたから？

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「あー疲れた・・」

ただいま俺はベッドの上でぐったりしてる。パーティの最中もあとも色んな人（主に女子）に絡まれだるかった。だけどこのベッドはまじいいな。このまま深～い眠りに・・・

ピピピピピ

落ちなかった。
何だこんな時間に・・・

「ＦＲＯＭ　万丈目準
今夜の１２時にお互いのベストカードをかけたアンティルールのデュエルをやる。
お前が絶賛してたレッドの落ちこぼれにも同じメールを送った。
勇気があるのならアカデミアのデュエル場に来い。」

はぁ仕方ねぇ行くとするか。
俺は転生して原作に関わるかどうか考えてたがせっかく転生したんだからすることにしたぜ。

俺がデュエル場に着いたらそこに万丈目、その取り巻き、十代と明日香がいた。

「来たか黒鉄爽児。俺は遊城十代を潰すが、お前も暇だろう。こいつらと遊んでろ。適当に一人選んでデュエルしとけ。」

「面倒くせぇな。一人じゃなくて三人まとめてかかってこいよ。三人もいれば俺のライフを1ぐらい減らせるんじゃないのか？」

挑発しすぎたかな？

「てめぇ、調子に乗りやがって」

「上等だ、やってやるよ」

「万丈目さん、デュエル場を使いますよ。」

うぉ、マジギレした。

「いいだろう、お前ら速攻で終わらせろよ。」

「あぁ、速攻で終わらせてやるよ。俺に瞬殺されるって意味でな。」

「いいの、爽児？一応彼らもブルーの中でも成績上位の生徒達よ。」

「余裕だってこんな奴ら」

そうして4人はデュエル場へ上がった。

「「「「決闘」」」」

爽児　ＬＰ　４０００
オベリスクのバカＡ　ＬＰ　４０００
オベリスクのバカＢ　ＬＰ　４０００
オベリスクのバカＣ　ＬＰ　４０００
「ルールを確認する。順番は俺⇒Ａ⇒Ｂ⇒Ｃで１ターン目は誰も攻撃できない。ライフは全員４０００だ。いいな。」
「「「誰がＡ、Ｂ、Ｃだ「俺のターン、ドロー」」」」
３人の声を遮るようにわざと大声でドローする爽児。
「俺はミンゲイドラゴンを守備表示で召喚。カードを４枚セットしターンエンドだ。」
ミンゲイドラゴン　ＤＥＦ　２００
「俺のターン、ドロー。俺は切り込み隊長を召喚する。このモンスターの召喚に成功したとき、手札からレベル４以下のモンスター一体を特殊召喚。俺は２体目の切り込み隊長を召喚！」
切り込み隊長　ＡＴＫ　１２００×２
「このモンスターがフィールド上に存在する限り相手は表側表示で存在するほかの戦士族モンスターを攻撃対象にできない。つまり、お前は俺に攻撃できない。ターンエンドだ。」

ただの切り込みロックじゃねぇか。そんな得意げに言うんじゃねぇよ。

「俺のターン、ドロー。俺は二重召喚を発動。俺はこのターン２回通常召喚が行える。俺はマシュマロンと魂を削る死霊を守備表示で召喚。ターンエンドだ。」

マシュマロン　ＤＥＦ　５００

魂を削る死霊　ＤＥＦ　２００

おい、普通こういうのは裏守備でセットだろうが。

「俺のターン、俺はゴブリン突撃部隊を召喚「罠カード激流葬を発動。モンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚されたときに発動でき、フィールド上の全てのモンスターを破壊する。」

「くそっ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、この瞬間ミンゲイドラゴンを蘇生する。」

ミンゲイドラゴン　ＤＥＦ　２００

「このモンスターはドラゴン族モンスターの生贄召喚に使用する場合２体分の生贄とすることができる。俺はミンゲイドラゴンを生贄にライトエンド・ドラゴンを召喚。」

ライトエンド・ドラゴン　ＡＴＫ　２６００

「ライトエンドでＡにダイレクト、シャイニングサプリメイション！！」

「うっ」

オベリスクのバカＡ　ＬＰ　４０００⇒１４００

「速攻魔法表裏一体を発動。フィールドのライトエンドをデッキに戻し、ダークエンドを特殊召喚する。」

ダークエンド・ドラゴン　ＡＴＫ　２６００

「ダークエンドでＡにダイレクト、ダーク・フォッグ！！」

「だからＡじゃねぇ～」

オベリスクのバカＡ　ＬＰ　１４００⇒０

「俺は伏せカード破壊輪を発動。フィールド上のモンスターを破壊し、そのモンスターの攻撃力分のダメージを全てのプレイヤーは受ける。さらにチェーン発動、地獄の扉越し銃。自分が受けるダメージを相手に与える。俺が選択するのはＢ。」

「うそだぁ～」

オベリスクのバカＢ　ＬＰ　４０００⇒０

「うわぁぁ」

オベリスクのバカＣ　ＬＰ　４０００⇒１４００

「まだ俺のバトルフェイズは終わってない。俺はリビングデッドの呼び声を発動。墓地のダークエンドを蘇生する。」

ダークエンド・ドラゴン　ＡＴＫ　２６００

「ダークエンドでＣに攻撃、ダーク・フォッグ！！」

「俺何もしてね～」

オベリスクのバカＣ　ＬＰ　１４００⇒０

「すごい、１ターン３キル・・・」

「さすが爽児、すげぇ。」

「ちっ、使えん屑共が・・」

３人は爽児の前でがたがたに震えてる。あとで万丈目に叱られることは確実な上にアンティで負けたのだからベストカードを渡さなければならないからだ。

「アンティのことだが・・・」

３人は半ば諦めている。

{さらば俺のギルフォード・・・}

{俺のメフィストがぁ～}

〜くそ、ガーゼットだけは許してくれー〜

「・・・いらない。別にてめぇらのカードが欲しくて来たわけじゃないからな。」

爽児がこういうと3人の顔に光が満ちた。

「さすがね、爽児。」

「おぉ明日香か。あの程度朝飯前だって。」

「爽児次は俺とやろうぜ。」

「貴様の相手はこの俺様だぁ！！！」

「俺はもう帰る。明日香あとでデュエルの結果教えてくれ。じゃあな」

初の原作ブレイクはこんな風に終わった。余談だが明日香から聞いた話によると十代と万丈目のデュエルは原作どおりガードマンに中断されるも結果十代の勝ち逃げっぽくなったとさ。

VSオベリスクのバカAとBとC（後書き）

『今回の最強カード』は・・・・・・・・

破壊輪

・・・・1回目の最強カードが禁止カードって

まぁいいや。まずは破壊輪の効果から見てみましょう

通常罠（禁止カード）

フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を破壊し、

お互いにその攻撃力分のダメージを受ける。

（遊戯王カードwikiより）

このカードが凶悪な理由はフリーチェーン、つまり発動タイミングが自由なこと。そして相手モンスターが破壊できることです。バーン効果も見逃せるものではなく実質直接攻撃を食らうようなものです。

昔は

デビル・フランケン⇒青眼の究極竜⇒破壊輪⇒地獄の扉越し銃で1キルが行われてました。カードプールが豊富な今制限復帰はないでしょう。ちなみに破壊指輪とかいう後釜もあります。この小説では遊戯王gxの禁止・制限リストに則っているので破壊輪はOKです。

読者の皆様に質問ですがこの小説では遊戯王gx時代のように「生贄」「生贄召喚」と表現しますが「リリース」「アドバンス召喚」等に言い換えたほうがいいでしょうか？あと小説1回分は長すぎますか？短すぎますか？指摘がなかったらこのままにしますがご意見、

感想、アドバイス等があったら遠慮なく言ってください。

長くなりましたがさようなら。

VS明日香&楓（前編）（前書き）

こんにちは千です。

今回は遂に今作品のヒロインが登場します。
頑張って書きますが過度な期待はしないで下さい。

それではどうぞ。

VS明日香&楓（前編）

ピピピピピ

〜何だこんな時間にメール？〜

「マルフジショウハアズカッテイル。カエシテホシクバ、ユウキジュウダイトトモニジョシリョウマデコラレタシ」

あぁそういえば偽ラブレター事件は今日だったな。

ピピピピピ

〜今度はなんだ？〜

「ＦＲＯＭ遊城十代

爽児大変だ！翔が攫われた！今から俺は女子寮に行くけどどうする？」

〜仕方ないなぁ、行ってやるか〜

そうして俺は十代と落ち合って、小船に乗って女子寮に向かった。

「アニキ〜爽児君〜」

女子寮に着いたら案の定縄で縛られてる翔と明日香、枕田、浜口と知らない顔が一人いた。

「きゃ、黒鉄様もいますわ。」

「近くで見るとかっこよさが一層際立ちますわね」

なんか騒がしいな。ま、一応知ってるけど聞いてみるか。

「翔、お前何したんだ・・」

「それが、話せば長くなるようなならないような・・・」

「こいつが女子寮の風呂を覗いたのよ」

やっぱり

「翔、お前の気持ちは分からんでもないがこの世の中にはやっていいことと悪いことがあってだな・・・」

「だから僕は覗いてないッス」

「このことが学校にばれたら退学は確実ね。そこで提案なんだけど私達とデュエルしない？あなた達が勝ったらこのことは水に流してあげるわ。私達が勝ったら丸藤君は退学、二人もただじゃすまないわ」

う、地味に俺らも巻き添え食うのかよ・・・・

「デュエルなら大歓迎だぜ」

さすが十代、即答だな。

「折角2人いるんだしタッグデュエルにしましょう。私と楓対あな

た達二人。どう？」

「ふぇ、私？」

楓が自分を指差す。

「いいじゃない、あなたも爽児とデュエルしてみたいでしょ？」

「う、うん。」

俺とデュエルしたいってのは嬉しいが何でわざわざ頬を赤くするんだ？

「最初のターンは誰も攻撃できない。順番は私⇒十代⇒楓⇒爽児でいいわね。」

「おう」

「それじゃあ「「「「決闘」」」」」

明日香＆楓ペア　ＬＰ　４０００

十代＆爽児ペア　ＬＰ　４０００

「先攻は私、ドロー。私はエトワール・サイバーを攻撃表示で召喚。」

エトワール・サイバー　ＡＴＫ　１２００

「カードを２枚セットしてターン終了よ。」

「俺のターン、ドロー。俺は魔法カード融合を発動！Ｅ・ＨＥＲＯバーストレディとフェザーマンを融合する。来いＥ・ＨＥＲＯフレイムウィングマン！！」

Ｅ・ＨＥＲＯフレイムウィングマン　ＡＴＫ　２１００

「カードを１枚セット、ターンエンドだ。」

「私のターン、ドロー。」

さぁお手並み拝見といこうか。

「私はフィールド魔法、魔法都市エンディミオンを発動します。」

周りに神秘的な建物が立ち並ぶ。

「手札からサイクロンを発動します。あの伏せカードを破壊！」

十代が伏せたヒーローバリアが破壊される。

「さらに魔法カードが発動されたことにより魔法都市エンディミオンに魔力カウンターがのります。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　０⇒１

「私は魔法カード魔力掌握を発動します。フィールドの魔力カウンターがのせることのできるカードに魔力カウンターを１個のせ、デッキから新たな魔力掌握をサーチします。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　１⇒３

「私は手札からブラック・コアを発動します。手札の魔力掌握を墓地に送りＥ・ＨＥＲＯフレイムウィングマンをゲームから除外します。そして魔力カウンターがのります。」

突如現われた黒い球体がフレイムウィングマンが襲う。

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　３⇒４

「私はおろかな埋葬を発動。デッキから神聖魔導王エンディミオンを墓地に送ります。そして魔法都市エンディミオンに新たな魔力カウンターがのります。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　４⇒５

「最後に私は強欲な壺を発動。カードを2枚ドロー。くどいようですが魔力カウンターがのります。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　５⇒６

「墓地の神聖魔導王エンディミオンの効果を発動。魔法都市エンディミオンにのってる魔力カウンターを6つ取り除くことでこのモンスターは手札および墓地から特殊召喚できます。来てエンディミオン！」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　６⇒０

神聖魔導王エンディミオン　ＡＴＫ　２７００

「この効果でエンディミオンの特殊召喚に成功したとき墓地の魔法カードを１枚手札に加えます。私は強欲な壺を選択。そして発動、カードを２枚ドロー。このとき魔法都市エンディミオンの魔力カウンターがのります。カードを２枚セットしてターンエンドです。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　０⇒１

「すげぇな１ターンでエンディミオンを召喚するとはな。俺も負けてらんねぇな。俺のターン、ドロー。俺は天使の施しを発動する。カードを３枚ドローし２枚捨てる。」

「そのとき魔法都市エンディミオンに魔力カウンターがのります。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　１⇒２

「俺は手札からバイス・ドラゴンを攻守を半分にして特殊召喚。」

バイス・ドラゴン　ＤＥＦ　１２００

「そしておれはバイス・ドラゴンを生贄にストロング・ウィンド・ドラゴンを召喚する。このモンスターは生贄にささげたドラゴン族モンスターの攻撃力の半分を得る。」

ストロング・ウィンド・ドラゴン　ＡＴＫ　３４００

「カードを2枚セットしてターンエンドだ。」

「私のターン、ドロー。私は魔法カード融合を発動。フィールドのエトワール・サイバーと手札のブレード・スケーターを融合。サイバー・ブレイダーを融合召喚。」

サイバー・ブレイダー　ＡＴＫ　２１００

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター　２⇒３

「相手フィールド上にモンスターが1体しか存在しない場合このモンスターは戦闘で破壊されない。私はフュージョンウェポンを装備。サイバー・ブレイダーの攻撃力を１５００ポイントアップする。」

サイバー・ブレイダー　ＡＴＫ　２１００⇒３６００

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター　３⇒４

そういえばアニメではサイバー・ブレイダーはレベル6だったな。

「バトル！！サイバー・ブレイダーでストロング・ウィンド・ドラゴンを攻撃、グリッサード・スラッシュ！！」

「俺は罠カードくず鉄のかかしを発動。相手モンスターの攻撃を無効にし、発動後再びこのカードをセットする。」

「くっ、ターンエンドよ。」

「俺のターン、ドロー。俺は融合回収を発動。墓地の融合とフェザーマンを手札に加える。そして融合を発動する。俺はＥ・ＨＥＲＯスパークマン、フェザーマン、バブルマンを融合するぜ。融合召喚！！現われろＥ・ＨＥＲＯテンペスター！！」

Ｅ・ＨＥＲＯテンペスター　ＡＴＫ　２８００

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター　４⇒６

「行けテンペスター、神聖魔導王エンディミオンを攻撃だ。カオステンペスト！！」

「罠カード魔法の筒を発動します。相手モンスターの攻撃を無効にしそのモンスターの攻撃力分のダメージを相手に与えます。」

「うわぁあ」

十代＆爽児ペア　ＬＰ４０００⇒１２００

「ターンエンド。」

「私のターン、ドロー。私は魔導騎士ディフェンダーを守備表示で召喚します。」

魔導騎士ディフェンダー　ＤＥＦ　２０００

「このモンスターの召喚に成功したときこのモンスターに魔力カウンターをのせます。」

魔導騎士ディフェンダー
魔力カウンター　０⇒１

「私は神聖魔導王エンディミオンの効果を発動。１ターンに１度手札から魔法カードを墓地に送ることでフィールド上のカードを１枚破壊します。私は　ブラックホールを墓地に送り、くず鉄のかかしを破壊します。」

「俺はテンペスターの効果を発動。くず鉄のかかしを墓地に送り、このモンスターはこのターン戦闘では破壊されなくなる。」

「くっ、私は明日香さんのサイバー・ブレイダーでＥ・ＨＥＲＯテンペスターを攻撃します。グリッサード・スラッシュ！」

「テンペスターは戦闘で破壊されない。」

「でも戦闘ダメージは受けてもらいます。」

十代＆爽児ペア　ＬＰ　１２００⇒４００

「ターンエンドです。」

「へへ、楽しくなってきたぜ。なぁ爽児？」

「あぁ、面白い。ここら辺で一気に逆転するか。俺のターン、ドロー！！」

〜〜〜顔つきが変わった。〜〜〜

明日香と楓はここからのデュエルは今までどおりには行かないことを直感で感じ取っていた。

VS明日香&楓（前編）（後書き）

折角のヒロインをまったく活かせてない自分の文章力の低さが憎いです（泣）

さぁ今回の最強カードは神聖魔導王エンディミオンです
さて効果を見てみましょうか。

効果モンスター
星７／闇属性／魔法使い族／攻２７００／守１７００
このカードは自分フィールド上に存在する
「魔法都市エンディミオン」に乗っている魔力カウンターを６つ取り除き、
自分の手札または墓地から特殊召喚する事ができる。
この方法で特殊召喚に成功した時、
自分の墓地に存在する魔法カード１枚を手札に加える。
１ターンに１度、手札から魔法カード１枚を捨てる事で、
フィールド上に存在するカード１枚を破壊する。
（遊戯王カードｗｉｋｉより）

魔力カウンター６つって難しそうですが魔法都市エンディミオンでは魔力カウンターを貯めるのって大分ラクですよ。現に楓も１ターンでの召喚に成功してる訳ですし。魔法カードをサルベージする効果やカードを破壊する効果も地味に強い。だけどデッキから召喚できないのが玉に傷。おろかな埋葬で落としましょう。

次回はタッグデュエルの決着を書きます。

それでは千でした。さようなら～

VS明日香&楓（後編）（前書き）

こんにちは千です。

今回は明日香&楓戦の決着をお楽しみください。

VS明日香&楓（後編）

「俺のターン、ドロー！！」

明日香&楓ペア　ＬＰ　４０００

明日香
手札　１枚
魔法・罠　２枚セット＋フュージョン・ウェポン
モンスター　サイバー・ブレイダー　ＡＴＫ　３６００（フュージョンウェポン）

楓
手札　１枚
魔法・罠　１枚セット＋魔法都市エンディミオン（魔力カウンター６つ）
モンスター　神聖魔導王エンディミオン　ＡＴＫ　２７００＋魔導騎士ディフェンダー　ＤＥＦ　２０００

十代&爽児ペア　ＬＰ　４００

十代
手札　０枚
魔法・罠　０枚
モンスター　Ｅ・ＨＥＲＯテンペスター　ＡＴＫ　２８００

爽児
手札　３枚
魔法・罠　１枚セット

モンスター　なし

「俺は墓地のライトエンドとダークエンドをゲームから除外する。」

「いつの間にそんなカードを墓地に？」

「楓、多分１ターン目に発動された天使の施しよ。」

「ご名答。さすが明日香だな。俺は２体のモンスターをゲームから除外しダークフレア・ドラゴンを特殊召喚する。」

ダークフレア・ドラゴン　ＡＴＫ　２４００

「俺はダークフレアの効果を発動！手札のアックス・ドラゴニュートとデッキのエクリプス・ワイバーンを墓地に送る。そして俺の墓地のストロング・ウィンド・ドラゴンをゲームから除外。さらにエクリプス・ワイバーンの効果発動！このモンスターが墓地に送られたときデッキから光属性または闇属性のレベル７以上のドラゴン族モンスターをゲームから除外する。俺はダークストーム・ドラゴンをゲームから除外！」

次々とモンスターが墓地に行ったり除外されていく。

「さらに俺は天よりの宝札を発動。全てのプレイヤーは手札が６枚になるようにドローする。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター　６⇒７

〔想像以上にやるわね〕

｛この状況で最強の手札増強カード・・・｝

｛やっぱ最高だぜ、爽児は｝

上から明日香、楓、十代だ。それぞれカードを6枚になるようにドローする。

「俺は罠カードバーストブレスを発動。ダークフレアを墓地に送り、そのモンスターの攻撃力以下の守備力のモンスターを全て破壊する！！」

ダークフレア・ドラゴンが放った業火が明日香と楓のモンスターを襲う。

「私は魔導騎士ディフェンダーの効果を発動します。このモンスターの魔力カウンターを取り除くことで魔法使い族モンスターの破壊を防ぎます。さらに魔法都市エンディミオンの効果を発動。自分フィールド上に存在する魔力カウンターを取り除いて自分のカードの効果を発動する場合、代わりにこのカードに乗っている魔力カウンターを取り除く事ができます。魔法都市エンディミオンの魔力カウンターを2つ取り除きエンディミオンとディフェンダーの破壊を無効にします。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　7⇒5

「俺はトラップ・ブースターを発動。手札を1枚捨て、このターン1度だけ手札から罠カードを発動できる。俺は墓地のダークフレア・ドラゴンと今捨てたフェルグラント・ドラゴンをゲームから除外し

てライトパルサー・ドラゴンを特殊召喚。」

ライトパルサー・ドラゴン　ＡＴＫ　２５００

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター　５⇒６

「俺は手札から罠異次元からの帰還を発動。ライフを半分払いゲームから除外されているモンスターを可能な限り特殊召喚する。来い、ダークエンド、ダークブレイズ、ダークストーム！！！！」

十代＆爽児ペア　ＬＰ　４００⇒２００

ダークエンド・ドラゴン　ＡＴＫ　２６００

ダークブレイズ・ドラゴン　ＡＴＫ　２４００

ダークストーム・ドラゴン　ＡＴＫ　２７００

爽児のフィールドに４体の竜が並ぶ。

「さらにダークストーム・ドラゴンを再度召喚して永続魔法一族の結束を発動。ダークストームの効果発動。自分フィールド上に表側表示で存在する魔法・罠カードを１枚墓地に送ることでフィールド上の魔法・罠を全て破壊する。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター　６⇒７

明日香のフィールドのドゥーブルパッセと攻撃の無力化、楓のフィ

ールドの漆黒のパワーストーンが破壊される。

「くっ、魔法都市エンディミオンの効果発動です。魔力カウンターを１つ取り除くことでこのカードの破壊を防ぎます。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　７⇒６

「ダークエンドの効果発動。このモンスターの攻撃力を５００ポイント下げ相手モンスター１体を墓地に送る。俺が選択するのは魔導騎士ディフェンダー！墓地に送る効果だからディフェンダーの効果は使用できないぜ、ダーク・イヴァポレイション！！」

ダークエンド・ドラゴン　ＡＴＫ　２６００⇒２１００

魔導騎士ディフェンダーが闇に呑まれて消える。

「バトル、テンペスターで神聖魔導王エンディミオンを攻撃、カオステンペスト！！」

「きゃっ！」

明日香＆楓ペア　ＬＰ　４０００⇒３９００

「これで終わりだぁ！！ダークブレイズとライトパルサーでダイレクトアタック、ダーク・バーニング、ホーリー・ブレス！！」

オリジナルの攻撃名を叫ぶのって恥ずかしいな・・

「「きゃぁぁ」」

明日香&楓ペア　LP　３９００⇒０

「「よっしゃぁぁ」」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・

今俺達は女子寮から帰ってる途中だ。
翔は約束どおり返してもらったし明日香のことだから翔のことを先生にばらしたりしないだろう
それに多分俺と同じこの世界にはいないはずのイレギュラーとも会ったしな。かなり強かったな。それに大分かわいかったし。葉月楓、覚えとくか。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・

ぼ～

「ちょっと楓、楓・・・・楓ってば！！」

「はっ、はい。なんでしょう？」

「あなた十代たちが帰ってきてからずっとその調子よ。大丈夫？」

「ちょっと考え事してただけ、へへへ・・」

「そう・・ならいいけど・・・先生が来るまでに早く戻りましょう。」

「うん、分かった。」

黒鉄爽児君かぁ。彼も私と同じ転生者かな。確かアニメではいなかったよね。

すっごい強かったな。またいつか相手してもらえるかな？

それにかっこよかった・・・ポッ

VS明日香&楓（後編）（後書き）

今回の最強カードは・・・異次元からの帰還！

効果は・・・

通常罠（制限カード）

ライフポイントを半分払って発動する。

ゲームから除外されている自分のモンスターを

可能な限り自分フィールド上に特殊召喚する。

エンドフェイズ時、この効果で特殊召喚した全てのモンスターは

ゲームから除外される。

（遊戯王カードｗｉｋｉより）

ライフポイントを半分ってのはとんでもない数値ですが裏を返せば

デュエル終盤で残りライフがわずかでも発動できるともいえます。

除外を多用するデッキの切り札ですね。エンドフェイズに除外され

るのでそのターンで勝負えを決めましょう。似た効果の禁止カード

次元融合はエンドフェイズに除外されない分、固定されたライフを

払わなければいけない上相手モンスターも帰還します。しかしそれ

でも魔法カードならではの速攻性があるので一長一短の関係です。

次回は月1テスト。波乱の実技試験。オリキャラも出す予定です。

それではさようなら

VS恵（前編）（前書き）

こんにちは～千です。

今回はヒロインの恋のライバルが出現！楓と壮絶なデュエルを繰り広げる・・・予定です。

どうぞお楽しみ下さい。

VS恵（前編）

『問１　プレイヤーＡの青眼の白龍とプレイヤーＢのバスター・ブレイダーが戦闘を行った。戦闘に勝利するのはどちらで戦闘ダメージはどのプレイヤーにどれだけ与えられるか答えろ。』

今俺達は月１試験を受けてる最中だ。

『問２　次のうちブラック・マジシャンの専用サポートカードではないものを答えろ。

１．黒・魔・導　２．千本ナイフ　３．熟練の黒魔術師

４．ディメンション・マジック』

遊戯王好きの俺にとってはこんなもの余裕な訳で・・・

『問３　炎の剣士の融合素材を答えろ』

満点確実だ。

こんな感じの問題が５０問ほどあって俺は試験時間の４分の１すら使わず終わったが、周りの生徒は机に突っ伏したり、必死に頭ひねって考えたり、諦めて呆けてる奴とかいろいろだ。

「・・・それでは筆記試験は終了だ。試験官がテストを回収するまで待機だ。尚１１時から実技テストがあるので準備しておくように。・・・・枚数確認を終了したので解散。」

生徒達はそれぞれ友達のところに行って「できた～？」とか「死んだ～」とか「来月は頑張ろう」とか言ってて、ここらへんは普通の高校生なんだなっと実感する爽児であった。

「ねぇ、爽児君。テストどうだった？」

ここにいる葉月楓もその一人。あの偽ラブレター事件以来俺らは結構仲良くなって頻繁にお互いの部屋でデュエルしたりしゃべったりとしている。最もその間の視線（特に男子の）が痛い・・・。ほら、今も殺気が俺に・・・・

「ん、まぁできたと思うぜ。そういう楓はどうなんだ？」

「え、私？私は全然だったよ。あ、そういえば問２の答えって千本ナイフだったりする？」

「残念、問２はディメンション・マジックだ。あれはブラック・マジシャンだけじゃなくてどんな魔法使い族モンスターにも使えるカードだ。」

「うぅ～今回のテストやばいなぁ。」

楓が泣きそうな顔になってる。やばい、励ましてあげないと。

「安心しろって。来月もテストはあるんだから頑張ればいいじゃん。それに実技もあるしな。お前なら実技でいい点取れるって。」

「ほ、本当？」

よし成功。

「あぁお前ならできるって。それに前俺があげたカードあるだろ。あれを使えば余裕余裕。あとちょっとで実技始まるから見に行こう

ぜ。」

「うん」

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「俺はＥ・ＨＥＲＯフェザーマンでダイレクトアタックだ！」

「くそぉぉぉぉぉ！！」

万丈目　ＬＰ　１０００⇒０

〔さすが十代、相変わらずのチートドローだな・・・〕

今俺は楓と一緒にデュエルの見物をしてる。

「すごいな十代君。あの万丈目君を倒しちゃった。」

「まぁ十代は強いからな。」

『次はデュエル場３で葉月楓さんと一条恵さんのデュエルを行います。両者は至急デュエル場３に来るように、繰り返します次は・・・・』

「お、楓出番だな。がんばれよ。」

「う、うん。頑張る。」

そういって楓はデュエル場に走っていった。

｛さてと応援に行くか｝

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「よろしくね葉月さん。」

「は、はい。よろしくお願いします。」

｛ふふ、緊張してるわね。私はこのデュエル絶対に勝たないといけないの。悪いけどあなたには負けてもらうわ。｝

「「決闘」」

楓　ＬＰ　４０００

恵　ＬＰ　４０００

「先攻は貰います。ドロー。私は魔導騎士ディフェンダーを守備表示で召喚します。」

魔導騎士ディフェンダー　ＤＥＦ　２０００

「カードを2枚セットし、ターンエンドです。」

「私のターン、ドロー。私は因幡之白兎を召喚。

因幡之白兎　ＡＴＫ　７００

「このモンスターは相手に直接攻撃することができる。行け、因幡之白兎プレイヤーに直接攻撃。」

「きゃっ！！」

楓　ＬＰ　４０００⇒３３００

「私はバトルフェイズを終了し暗黒の扉を発動。このカードが発動されている限り、お互い１ターンに１度しか攻撃宣言を行えない。カードを２枚セットしターン終了。このときスピリットモンスターである因幡之白兎は手札に戻るわ。」

そういい終えると因幡之白兎が光に包まれ恵の下に戻る。

「くっ、私のターン、ドロー。私は召喚僧サモンプリーストを守備表示で召喚します。」

召喚僧サモンプリースト　ＤＥＦ　１６００

「サモンプリースとの効果を発動します。手札の魔法カードを１枚墓地に送りデッキからレベル４のモンスターを特殊召喚します。」

サモンプリーストが怪しげな呪文を唱える。

「私が選ぶのはクルセイダー・オブ・エンディミオン。」

クルセイダー・オブ・エンディミオン　ＡＴＫ　１９００

「サモンプリーストの効果で召喚したモンスターはこのターン攻撃できません。けど私はディフェンダーの表示形式を変更します。」

魔導騎士ディフェンダー　ＡＴＫ　１６００

「私はディフェンダーで恵さんにダイレクトアタック。」

魔導騎士ディフェンダーが手に持つ短剣で恵を切りつける。

「ぐっ」

恵　ＬＰ　４０００⇒２４００

「ターンエンドです。」

「私のターン、ドロー。私は阿修羅を召喚するわ。」

阿修羅　ＡＴＫ　１７００

「強欲な壺を発動してカードを２枚ドロー。八尺勾玉を装備。このカードは装備モンスターが手札に戻ることで破壊されるとき手札に戻すことができる。そして装備モンスターが破壊したモンスターの攻撃力分のライフを回復する。そして阿修羅は相手の全てのモンスターの攻撃することができる。そしてビッグバン・シュートを装備。攻撃力を４００ポイントあげて貫通効果を付与する。」

阿修羅　ＡＴＫ　１７００⇒２１００

「バトル、まずはディフェンダーに攻撃、地獄の千手剣！！」

「くっ、ディフェンダーの効果で破壊を防ぎます。」

「だけど戦闘ダメージは受けてもらうわ。」

楓　ＬＰ　３３００⇒２８００

「次はサモンプリーストよ。」

「クッ・・・」

楓　ＬＰ　２８００⇒２３００

恵　ＬＰ　２４００⇒３２００

「最後にエンディミオンね。」

「うっ・・・」

楓　ＬＰ　２３００⇒２１００

恵　ＬＰ　３２００⇒５１００

〜一気にライフの差が３０００ポイントも・・・大丈夫かな。〜

不安げになる楓に対し・・・

〜よし、勝ってる・・・確実に押してる。このままいってこの女を倒せば、爽児様は私のものに・・〜

こっちは熱く燃えていた。そう、恵は爽児のことが好きだった。恵

は爽児ファンクラブの副会長で爽児への愛なら誰にも引けをとらない（自称）と語るほどだ。自身の容姿も明らかにかわいい、の部類に入るしスタイルもいい。

〝私こそが爽児様にふさわしいのに、この娘は・・・〟

しかし最近爽児と楓はよく一緒にいるのを見かける。周りには二人が付き合いだしたと言う人もいる。

〝観客席には爽児様がいる。このデュエルに勝って爽児様に振り向いてもらう！！〟

と熱い信念を持ってこのデュエルに望んでいる訳だ。勿論当の本人はそんなことまったく知らないのだが。

ＶＳ恵（前編）（後書き）

今回の最強カードは阿修羅！！

いつもどおり効果から行きますか。

スピリットモンスター
星４／光属性／天使族／攻１７００／守１２００
このカードは特殊召喚できない。
召喚・リバースしたターンのエンドフェイズ時に持ち主の手札に戻る。
このカードは相手フィールド上に存在する
全てのモンスターに１回ずつ攻撃をする事ができる。
（遊戯王カードｗｉｋｉより）

スピリットモンスターの特徴としてエンドフェイズに手札に戻るデメリットがあるけど全体攻撃は非常に強力。相手にリクルーターや弱小トークンを潰しまくりましょう。光属性なのでオネストの恩恵も受けれるし、ビッグバン・シュートを用いたら大ダメージ確定な強力カードでした。

次回はＶＳ恵戦の決着です。

それではさようなら

VS恵（後編）（前書き）

こんにちは千です。

今回は恵との決着、そして小説初のオリカ登場です。

それではお楽しみ下さい。

VS恵（後編）

「私はターンエンド、エンドフェイズに阿修羅と八尺勾玉は手札に戻るわ。」

勝ち誇った表情で恵はターン終了を宣言する。

恵
LP　５１００
手札３枚
魔法・罠　２枚セット＋暗黒の扉
モンスター　なし

楓
LP　２１００
手札２枚
魔法・罠　２枚セット
モンスター　魔導騎士ディフェンダー　ＡＴＫ　１６００

〜今恵さんの手札は阿修羅、八尺勾玉、因幡之白兎の３枚。ディフェンダーにはもう魔力カウンターが残っていないし攻撃表示なら阿修羅に倒されてライフを回復されるし守備表示に変えたとしても因幡之白兎が直接攻撃をしてくる。どうすれば・・・〜

「あなたのターンよ、早くドローして。」

「・・・あ、はいスイマセン。私のターン、ドロー。」

〜何を考えてたのかしら。要注意ね。〜

「私は強欲な壺を発動してカードを2枚ドローします。」

〜こ、このカードは爽児君がくれたカード。よし、これで逆転してみせる。〜

「私はマジカル・コンダクターを攻撃表示で召喚します。」

マジカル・コンダクター　ＡＴＫ　１７００

〜見たことないカード・・・〜

「さらに私はテラ・フォーミングを発動します。デッキから魔法都市エンディミオンをサーチします。そしてマジカル・コンダクターの効果を発動します。お互いが魔法カードを発動するたびにこのカードに魔力カウンターを2つのせます。」

マジカル・コンダクター
魔力カウンター　０⇒２

「そして魔法都市エンディミオンを発動。更なるカウンターをコンダクターにのせます。」

マジカル・コンダクター
魔力カウンター　２⇒４

「私は魔法カードおろかな埋葬を発動し、デッキから神聖魔道王エンディミオンを墓地に送ります。そして新たなカウンターをのせます。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　０⇒１

マジカル・コンダクター
魔力カウンター　４⇒６

「そして私は罠カード漆黒のパワーストーンを発動します。このカードに魔力カウンターを３つのせます。そしてこのカードの魔力カウンターを１個取り除くことでマジカルコンダクターにカウンターを一つのせます。」

漆黒のパワーストーン
魔力カウンター　０⇒３⇒２

マジカル・コンダクター
魔力カウンター　６⇒７

「マジカル・コンダクターの効果を発動します。１ターンに１度このモンスターの魔力カウンターお全て取り除き、取り除いた魔力カウンターの数と同じレベルの魔法使い族モンスターを墓地から蘇生します。来て、神聖魔導王エンディミオン！！」

マジカル・コンダクター
魔力カウンター　７⇒０

神聖魔導王エンディミオン　ＡＴＫ　２７００

「エンディミオンの効果を発動します。手札の二重召喚を墓地に送り恵さんの暗黒の門を破壊します。」

エンディミオンが放った魔力が暗黒の門を粉砕する。

「だけど私は威嚇する咆哮を発動するわ。このターンあなたは攻撃宣言することができない。」

「ターンエンドです。」

〜まさか1ターンでここまでモンスターを展開するなんて・・だけど負けないわ。〜

「私のターン、ドロー。私は命削りの宝札でカードを5枚ドロー。私は阿修羅を召喚して八尺勾玉を装備。」

「このとき魔力カウンターがのります。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　1⇒2

マジカル・コンダクター
魔力カウンター　0⇒2

「そしてディフェンダーを攻撃。地獄の千手剣！」

「クッ。」

楓　LP2100⇒2000

「　八尺勾玉の効果でライフを回復。」

恵　LP　5100⇒6700

「さらにマジカル・コンダクターを攻撃、その瞬間に収縮を発動しマジカル・コンダクターの攻守を半分にするわ。」

「魔力カウンターがのります」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　２⇒３

マジカル・コンダクター
魔力カウンター　２⇒４

「構わないわ、地獄の千手剣！」

マジカル・コンダクター　ＡＴＫ　１７００⇒８５０

「きゃ・・」

楓　ＬＰ　２０００⇒１１５０

「そしてライフを回復。」

恵　ＬＰ　６７００⇒８４００

「魔法都市エンディミオンの効果を発動します。魔力カウンターが乗っているカードが破壊された場合、破壊されたカードに乗っていた魔力カウンターと同じ数の魔力カウンターをこのカードに置くことができます。」

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター　３⇒７

「バトルフェイズを終了するわ。メインフェイズ２に強制転移を発動。私の阿修羅とあなたのエンディミオンのコントロールを入れ替えるわ。」

そう言い終えるとエンディミオンが恵の場に、阿修羅が楓の場に現われる。

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　７⇒８

「私はターンを終了する。このとき阿修羅と八尺勾玉は私の手札に戻ってくる。」

「くっ、私のターン、ドロー・・・」

｛どうしよ、恵さんのライフは８０００を越えちゃったし私のエンディミオンは奪われちゃった。私のデッキにはモンスター除去カードは少ないし２７００以上の攻撃力のモンスターだっていない。｝

楓はチラッと観客席を見てみる。そこには応援の三沢、十代、そして爽児がいた。

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
ーーーーーー

「すごいな、完全なコントロール奪取だ。それにただでさえ場持ちが悪くて使いにくいスピリットモンスターをあんなに巧みに使いま

わすとは。」

「まったく同感だ。」

「あのデュエリストすげぇな。」

上から爽児、三沢、十代だ。今は楓の応援をしてる。

｛正直楓は圧倒的に不利だな。ライフ差が開きすぎてる上に切り札を奪われてるからな。さてここからどうやって逆転するかな？｝

「ここが正念場だぞ、楓。頑張れよ！！」

俺は立ち上がって大声で叫んだ。十代がニヤニヤしてるが気にしない・・・

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「ここが正念場だぞ、楓。頑張れよ！！」

｛そうだ、私には応援してくれる人がいるんだ。諦めてちゃだめ、頑張らなきゃって、あれ？恵さんがすごい怒ってる。｝

｛ぐぬぬぬぬ・・・悔しい！！折角勝ってるのに爽児様に振り向いてもらえない上に、負けてるこの娘に応援ですって？うらやましすぎますわ。｝

「私は天よりの宝札を発動しカードを６枚になるようにドローしま

す。このとき魔法都市エンディミオンに更なるカウンターをのせます。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　８⇒９

「・・・恵さん、このデュエル私の勝ちです。」

堂々と勝利宣言する楓。

「・・・」

〜私のセットカードはドレイン・シールド。勝てるものなら勝ってみなさい。〜

「私は早すぎた埋葬を発動します。ライフを８００ポイント払い墓地のマジカル・コンダクターを蘇生します。ついでに魔法都市エンディミオンにもカウンターがのります。」

楓　ＬＰ　１１５０⇒３５０

マジカル・コンダクター　ＡＴＫ　１７００

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　９⇒１０

「また、魔力カウンター。そんなに貯めてどうするつもり？」

「こうするつもりです。私はメガトン魔導キャノンを発動します。魔法都市エンディミオンの魔力カウンターを１０個取り除き相手フ

ィールド上のカードを全て破壊します。」

「な、何？」

魔法都市エンディミオンの魔力カウンターが一斉に砲台から発射され、恵のフィールドのカードを襲う。

「魔力カウンターをのせます。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　０⇒１

マジカル・コンダクター
魔力カウンター　０⇒２

「私は魔力掌握を発動します。魔法都市エンディミオンにカウンターをのせて新たな魔力掌握をサーチします。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　１⇒３

マジカルコンダクター
魔力カウンター　２⇒４

「さらに漆黒のパワーストーンの魔力カウンターをエンディミオンに移します。」

漆黒のパワーストーン
魔力カウンター　２⇒１

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　３⇒４

「私は手札から天使の施しを発動します。カードを３枚ドローし２枚捨てます。そして魔力カウンターをのせます。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　４⇒５

マジカル・コンダクター
魔力カウンター　４⇒６

「そしてわたしは２体目のクルセイダー・オブ・エンディミオンを召喚します。これですべてそろいました。」

クルセイダー・オブ・エンディミオン　ＡＴＫ　１９００

すごいスピードでカウンターをのせていく楓に観客は言葉が出なかった。

「私は魔法都市エンディミオンの効果を発動します。１ターンに１度、自分フィールド上に存在する魔力カウンターを取り除いて自分のカードの効果を発動する場合、代わりにこのカードに乗っている魔力カウンターを取り除く事ができます。私はエンディミオンにのってるカウンターを全て取り除き墓地から魔法の操り人形を召喚します。」

魔法の操り人形　ＡＴＫ　２０００

「そして私は罠カード魔力集結を発動します。このカードは自分フ

ィールド上の魔力カウンターをのせることができるカードを1枚選択し、選択したカードにのってる魔力カウンター以外の魔力カウンターを全て取り除きます。そのあと選択したカードに取り除いた魔力カウンターの数と同じ数魔力カウンターを洗濯したカードにのせます。私が選ぶのは魔法都市エンディミオン！！」

フィールドの全ての魔力カウンターが魔法都市に集まっていく。

マジカル・コンダクター
魔力カウンター　６⇒０

漆黒のパワーストーン
魔力カウンター　１⇒０

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　０⇒７

漆黒のパワーストーンは破壊される。

「私は魔法都市エンディミオンにのってる魔力カウンターを６つ取り除き墓地から神聖魔導王エンディミオンを特殊召喚します。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　７⇒１

神聖魔導王エンディミオン　ＡＴＫ　２７００

楓のフィールドに４体の魔法使いが並ぶ。

「この効果でエンディミオンを特殊召喚した場合墓地の魔法カード

を1枚手札に加えます。私は二重召喚を手札に加え、発動します。クルセイダー・オブ・エンディミオンを再度召喚！効果モンスターとなったクルセイダーの効果で魔法都市エンディミオンに魔力カウンターをのせ、このモンスターの攻撃力を６００ポイントアップします」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　１⇒３

マジカル・コンダクター
魔力カウンター　０⇒２

魔法の操り人形
魔力カウンター０⇒１

クルセイダー・オブ・エンディミオン　ＡＴＫ　１９００⇒２５００

「全員で一斉攻撃、マジック・ブラスト！！」

「きゃぁぁぁ」

恵　ＬＰ　８４００⇒０

VS恵（後編）（後書き）

今回の最強カードは・・・マジカル・コンダクター！！
この話で楓のデッキを回したキーカードですね。
まずは効果から

効果モンスター
星４／地属性／魔法使い族／攻１７００／守１４００
自分または相手が魔法カードを発動する度に、
このカードに魔力カウンターを２つ置く。
このカードに乗っている魔力カウンターを任意の個数取り除く事で、
取り除いた数と同じレベルの魔法使い族モンスター１体を、
手札または自分の墓地から特殊召喚する。
この効果は１ターンに１度しか使用できない。
（遊戯王カードｗｉｋｉより）

簡単に言うとこのカードにのってる魔力カウンターを対象のレベル分取り除いて手札及び墓地から魔法使い族モンスターを蘇生するという強力なカードです。勿論魔法都市エンディミオンで肩代わりも可能ですし、魔力カウンターを使うデッキならどれでも入ります。

次回は爽児の実技を書きます。果たして爽児の相手とは・・・？

さようなら

VS三沢（前編）（前書き）

こんにちは、千です。

もうタイトルでネタバレになってるけど爽児の対戦相手は三沢です。

彼の新しいデッキを披露します。

それではどうぞ。

VS三沢（前編）

「よくやったな楓！」

「えへへ、ありがとう爽児君。爽児君のおかげだよ。」

楓のデュエルが終わり、楓の相手は悔しそうに帰っていった。どうやら俺の応援（？）は楓に届いてたらしく、大きな助けになったらしい。

「爽児君も頑張ってね。」

「あぁ任せろ！」

といっても俺の相手はちょっと厳しいんだけどな・・・

『次はデュエル場１２で三沢大地君と黒鉄爽児君のデュエルを行います。両者は至急デュエル場１２に来るように。』

さっきアナウンスがあったばかりだ。

「じゃあ楓行ってくる。」

「うん、私も後で応援に行くよ。」

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
ーーーーーーー

「まさかこんな形で受験の日の約束が叶うとはな。」

今俺は三沢と対峙してる。

「三沢、俺対策のデッキはできたのか？」

「あぁ、俺の第７のデッキでお前を倒してみせる。」

ちなみにアニメでの第７のデッキは十代対策だったけどあれはノース校とのデュエルの代表決定戦だから月１試験の方が時間軸的に早い。だから十代対策は第８のデッキになるんだな。

「「決闘」」

三沢　ＬＰ　４０００

爽児　ＬＰ　４０００

「俺のターン、ドロー。俺はオキシゲドンを攻撃表示で召喚。」

三沢のフィールドに青緑色の竜が現われる。一応恐竜族だぞ、こいつ・・・

オキシゲドン　ＡＴＫ　１８００

〜オキシゲドンってことはウォーター・ドラゴンデッキってことか？〜

「俺はカードを１枚セットしてターン終了だ。」

「俺のターン、ドロー。来い、ゴーレム・ドラゴン」

ゴーレム・ドラゴン　ＤＥＦ　２０００

「カードを2枚セットしてターンエンドだ。」

〜さて、どうくる？〜

「俺のターン、俺は魔法カード二重召喚を発動する。このターン俺は二回通常召喚が可能となる。俺はハイドロゲドンとプロミネンス・ドラゴンを召喚。」

ハイドロゲドン　ＡＴＫ　１６００

プロミネンス・ドラゴン　ＡＴＫ　１５００

「俺は魔法カードエクスプロージョン・エクスペリメントを発動する。フィールドのハイドロゲドン、オキシゲドン、炎属性炎族モンスターを生贄にささげ手札、デッキ、墓地からファイヤー・ドラゴンを特殊召喚する。」

ファイヤー・ドラゴン　ＡＴＫ　２８００

〜見たことないモンスターだな・・・〜

爽児はＯＰをあまり見ない派だったのでこのモンスターの存在を知らない。

「バトル、ファイヤー・ドラゴンでゴーレム・ドラゴンを攻撃、フレイム・パニッシャー！」

「俺は罠カードくず鉄のかかしを発動。相手モンスターの攻撃を無効にし再びこのカードをセットする。」

「く、俺はターンを終了する。」

「俺のターン、俺はランス・リンドブルムを攻撃表示で召喚。ターンエンドだ。」

ランス・リンドブルム　ＡＴＫ　１７００

「俺のターン、ドロー、俺はこの瞬間ファイヤー・ドラゴンの効果を発動。俺は手札の炎属性・炎族モンスターを墓地に送ることで相手フィールド上にセットされた罠カードを破壊する。パイロ・ボム！！」

ファイヤー・ドラゴンが口から放った炎の玉がくず鉄のかかしを破壊する。

「バトル、俺はファイヤー・ドラゴンでゴーレム・ドラゴンを攻撃、フレイム・パニッシャー！言い忘れてたがファイヤー・ドラゴンには貫通効果があるからな。」

「くっ、」

爽児　ＬＰ　４０００⇒３２００

「ターン終了だ。」

〔なるほど貫通効果を持った高攻撃力モンスターで殴る作戦か。罠

カードを破壊する効果は結構厄介だな。俺が上級モンスターを召喚する前に終わらす気か。」

「俺のターン、ドロー。俺は神竜アポカリプスを守備表示で召喚。」

神竜アポカリプス　ＤＥＦ　１５００

「俺は神竜アポカリプスの効果を発動、手札を1枚捨て、墓地のゴーレム・ドラゴンを手札に加える。そして俺はドラゴニック・タクティクスを発動する。」

「この瞬間を待っていた。俺は罠カード虚無空間を発動、お互いはあらゆる特殊召喚ができなくなる。」

「何だと！！」

「よってドラゴニック・タクティクスは不発となる。」

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
ーーーーーー

回想

三沢ｉｎ自室

「ライトエンド・ドラゴン、ダークエンド・ドラゴン、光と闇の竜。様々なモンスターを一瞬で召喚し、上級モンスターを召喚しビートダウンを行う。特に厄介なのは魔法カードドラゴニック・タクティクスとミンゲイ・ドラゴン。前者はデッキに眠る上級モンスターを召喚する。爽児にとってドラゴン族モンスターを2体並べるのは容

易だからな。後者はいつの間にか墓地に送られ、特殊召喚ができない光と闇の竜の布石となる。さらに爽児には万能攻撃妨害のくず鉄のかかしやガード・ブロック、威嚇する咆哮など厄介な罠が多い。」

三沢は今自室で爽児対策の第7のデッキを創作している最中だ。

「王宮の弾圧でも入れるか？だけどあのカードはライフコストを要するから実質４回しか発動できない。たった４回特殊召喚を抑えたところで爽児に勝てるか？ならライフ回復カードを入れる・・・いやそうなるとデッキが受動的すぎる。それに罠カードの対策をしなければ。サイクロンも入れるか、いや威嚇する咆哮はフリーチェーン、無駄だ。・・・ん、待てよ。このカードとこのカードなら・・・・・・ブツブツ」

回想終了

ーーー

ドラゴンの効果で伏せカードを破壊、パイロ・ボム！」

「俺はチェーン発動で威嚇する「残念だがファイヤー・ドラゴンの効果発動に罠カードはチェーン出来ない！」・・くそ。」

爽児の威嚇する咆哮が効果を発動する間も無く炎に包まれる。

「神竜アポカリプスに攻撃、ファイヤー・パニッシャー！！」

「うっ・・・」

爽児　ＬＰ　３２００⇒１９００

「ターンエンドだ。俺は徹底的にお前のデッキを調べ上げた。お前に勝ち目はない！！」

VS三沢（前編）（後書き）

今回の最強カードはファイヤー・ドラゴン。
最強カードシリーズ初のオリカです。外見は遊戯王ＧＸの第１ＯＰの三沢のシーンで三沢の右にいる炎の竜だと思ってください。では効果から

効果モンスター
星８／炎属性／炎族／攻２８００／守２６００
このカードは通常召喚できない。
「エクスプロージョン・エクスペリメント」の効果でのみ特殊召喚することができる。１ターンに１度、手札の炎属性・炎族モンスターを墓地に送ることで相手フィールド上にセットされている魔法・罠カード１枚を破壊する事ができる。この効果の発動に対して魔法・罠カードを発動する事はできない。このモンスターがこのカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「エクスプロージョン・エクスペリメント」は自分フィールド上の「オキシゲドン」、「ハイドロゲドン」と炎属性・炎族モンスターを墓地に送りファイヤー・ドラゴンを特殊召喚する魔法カードです。効果は前者はコスト付きの「神炎皇ウリア」後者は貫通効果です。この二つの効果はシナジーしてて
相手の厄介な罠を破壊⇒高攻撃力でダメージを与える
という動作が可能です。とても攻撃的な効果ですが「エクスプロージョン・エクスペリメント」のディスアドバンテージが激しい上に類似召喚方法の「ウォーター・ドラゴン」と違い、たとえ破壊されても損失が取り戻せる訳ではないのでカード破壊に弱いです。

特殊召喚を封じられて成す術のない爽児、果たして逆転できるのか？

お楽しみに～

VS三沢（後編）（前書き）

こんにちは千です。

「もう一人の英雄」は読者様の質問・コメント・アドバイス・リクエスト（〇〇に××のカードを使って欲しい、〇〇と△△のデュエルが見たい等）を募集してます。何かあったら気軽に言ってください。

ではどうぞ

VS三沢（後編）

「俺は徹底的にお前のデッキを調べ上げた。お前に勝ち目はない！！」

「クッ・・・」

三沢
ＬＰ　４０００
手札１枚
魔法・罠　虚無空間
モンスター　ファイヤー・ドラゴン　ＡＴＫ　２８００

爽児
ＬＰ　１９００
魔法・罠　なし
モンスター　ランス・リンドブルム　ＡＴＫ　１７００

「ねぇ、明日香さん。爽児君はどう？」

楓は今爽児と三沢のデュエルが行われているデュエル場１２に着いたばかりだった。前からいた明日香に話を聞くと早々に貫通効果持ちの切り札、ファイヤー・ドラゴンで場を制圧する三沢に対し特殊召喚を封じられ自慢の高速召喚が出来ない爽児。誰が見ても三沢が有利だ。

「普通のデュエリストならここからの逆転は厳しいわね。」

{でも爽児君なら・・・}

ーーー

ールド上にレベル7以上のモンスターが
表側表示で存在する場合のみ発動する事ができる。相手フィールド上に表側表示で存在するレベル5以下のモンスターを全て破壊する。」

ファイヤー・ドラゴンが氷を破壊し、炎の玉を2体の竜に飛ばす。

「残念だったな。生贄は残させないぞ。このカードを発動するターン、自分は攻撃できない。最もブリザード・ドラゴンで攻撃は封じられてるがな。ターンエンド。」

〜俺の戦術が先読みされてる。このままじゃ俺のライフが持たない。〜

「俺のターン、ドロー・・・・。三沢、勝利の女神は俺を見放さなかったようだぜ。俺は永続魔法一族の結束を発動。このカードは自分の墓地に存在するモンスターの元々の種族が1種類のみの場合、自分フィールド上に表側表示で存在するその種族のモンスターの攻撃力は800ポイントアップする魔法カード。そして俺はアックス・ドラゴニュートを攻撃表示で召喚！」

アックス・ドラゴニュート　ＡＴＫ　２０００

「一族の結束でパワーアップ！！」

アックス・ドラゴニュート　ＡＴＫ　２０００⇒２８００

「何、ファイヤー・ドラゴンと攻撃力が並んだだと！？」

「バトル、アックス・ドラゴニュートでファイヤー・ドラゴンを攻

撃！」

「く、迎え撃てファイヤー・ドラゴン！」

二体のモンスターが激突し、お互い爆発する。

「お前のフィールドのカードが破壊されたことにより、虚無空間には消えてもらう。」

「くそっ、」

「カードを2枚セットしてターンエンドだ！」

ーーー

ーーー

〜おそらく神竜アポカリプスのコストで捨てたものだろう。または天使の施しか？」

「ライトパルサー・ドラゴンを召喚。一族の結束でパワーアップ。」

ライトパルサー・ドラゴン　ＡＴＫ　２５００⇒３３００

「そして混沌空間の効果を発動。モンスターがゲームから除外されるたびに１体につきこのカードにカオスカウンターを１個のせる。」

混沌空間

カオスカウンター　０⇒２

「俺は魔法カードスペシャル・ドローを発動。自分フィールドの特殊召喚されたモンスター１体を墓地に送りカードを１枚ドローする。俺はライトパルサーを墓地に送る。その瞬間にライトパルサーの効果を発動。このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分の墓地のドラゴン族・闇属性・レベル５以上のモンスター１体を選択して特殊召喚できる。来いダークエンド・ドラゴン。」

ダークエンド・ドラゴン　ＡＴＫ　２６００⇒３４００

「さらに俺は墓地のライトパルサーと神竜アポカリプスをゲームから除外しダークフレア・ドラゴンを召喚。」

ダークフレア・ドラゴン　ＡＴＫ　２４００⇒３２００

混沌空間

カオスカウンター　２⇒４

「ダークフレアの効果発動。手札とデッキのドラゴンを墓地に送り、墓地のカードを除外。俺は手札からゴーレム・ドラゴン、デッキからライトエンド・ドラゴンを墓地に送る。そしてそのままライトエンドをゲームから除外。」

混沌空間
カオスカウンター　４⇒５

「混沌空間の効果発動。１ターンに１度、自分フィールド上のカオスカウンターを４つ以上取り除く事で、取り除いた数と同じレベルを持つ、ゲームから除外されているモンスター１体を選択し、自分フィールド上に特殊召喚する。俺は５つのカウンターを取り除き、除外されているライトパルサーを復活させる。」

ライトパルサー・ドラゴン　ＡＴＫ　２５００⇒３３００

爽児得意の上級ドラゴンの連続召喚が行われる。

「ダークエンドの効果を発動、逆巻く炎の精霊を墓地へ、ダーク・イヴァポレイション！！」

ダークエンド・ドラゴン　ＡＴＫ　３４００⇒２９００

「俺は重力の網－グラビィティ・バインドを発動。これでお前のモンスターは攻撃できない。」

「どうかな？俺はカウンター罠竜の咆哮を発動、自分のレベル７以上のドラゴンを生贄にささげ相手の魔法・罠・モンスター効果は無効にしては破壊する。」

「なにっ！？」

「俺はバトルフェイズを続行、ダークフレアとライトパルサーでダイレクトアタック！ダーク・バーニング、ホーリー・ブレス！！！」

「ふ、俺の負けか。」

三沢　ＬＰ　４０００⇒０

ーーー

「・・・う、うん。」

「ねぇ、楓？」

そういえば明日香さんいたんだっけ。

「あなた・・・・爽児のことが好きでしょ。」

急に恥ずかしくなって楓は下を向く。そして小さく頷いた。

「ふーん、前からそうだと思ってたけどやっぱそうなんだ。よし、私が協力してあげるわ。」

「協力？」

「そうよ、告白の協力。」

「こここ、告白！？」

「うん、あなたの思いを爽児に伝えるのよ。見た感じ爽児もまんざらでもないみたいだし。あなたの部屋で作戦会議しましょう。あとジュンコとモモエも呼んで・・・」

〜うぅ、勝手に話が進んでく・・・。アニメではそんな感じしなかったけどやっぱ明日香さんも普通の高校生の女子なんだなこういうとこは。告白かぁ・・〜

この日を始めに楓の告白作戦会議が開始されているのを爽児は知るはずもなかった。

VS三沢（後編）（後書き）

今日の最強カードはライトパルサー・ドラゴン。新ストラクチャーデッキドラゴニック・レギオンの看板モンスター。この小説では爽児の準・切り札的な扱いです。まずは効果から

効果モンスター
星６／光属性／ドラゴン族／攻２５００／守１５００
このカードは自分の墓地の光属性と闇属性のモンスターを１体ずつゲームから除外し、手札から特殊召喚できる。
また、手札の光属性と闇属性のモンスターを１体ずつ墓地へ送り、このカードを自分の墓地から特殊召喚できる。
このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、自分の墓地のドラゴン族・闇属性・レベル５以上のモンスター１体を選択して特殊召喚できる。
（遊戯王カードｗｉｋｉより）

手札・墓地からそれぞれ特殊召喚できる効果は非常に便利。デッキ構築の際は光と闇の墓地肥やしが出来るデッキにしましょう。蘇生効果も協力で同ストラクチャーデッキ収録のレッドアイズ・ダークメタル・ドラゴンとはお互いを蘇生できる関係にあります。攻撃力も高いので大量展開して一気に攻めましょう。

尚前書きの通りこの小説は読者様の声を募集しています。あまりにも無理すぎるものはともかく出来る限り皆様の意見を採用していくつもりなのでよろしくお願いします。

VS闇の決闘者（前書き）

こんにちは千です。

今回はタイトルどおり闇の決闘者とのデュエル。
タイタンではなく使うデッキはチェスデーモンではない。
いつもとはまったく違うデュエルに爽児はどうするのか？

それでは、どうぞ

VS闇の決闘者

「ふぁぁぁ、・・・暇だな・・・」

おっす。爽児だ。見れば分かるだろうが今は暇をもてあましてる。

〜散歩でも行くか・・・3回目だけど・・〜

何で今日はこんなに暇かというと十代たちは補習授業でいないし、楓は明日香と約束してるらしいし（何か恥ずかしそうだったが何だったんだろう？）三沢は月1試験以来「新しいデッキの研究をするんだ！！！」とか言って部屋から出てこないし。前までちょっと遊んでた他のブルーの生徒は前の試験で降格になったし。あっ、そういえば前の筆記テスト満点だったぜ。また目立っちゃったけど。とまぁこんな感じで最初は「たまにはこんな平和な日もいいな」とか思ってたのに暇すぎて死にそうだ。

「ふぁぁぁ、・・・暇だな・・・・」

今日言ったの何回目分からないなこの台詞。ぼんやりした気分でブルー寮の外に出ると

「ふふふふふ、見つけたぞ黒鉄爽児。」

〜なんだこのおっさん？全身黒ずくめでグラサンかけてやがる。この時期って何かイベントあったっけな？〜

俺が記憶の中で模索してるとすぐに答えが分かった。いつの間にか周りに黒い霧のようなものが俺達を囲った。そうか・・

「これは闇のデュエルか・・・。」

「よく知ってるな。なら説明は省こう。さぁ、デュエルディスクを構えろ。」

思いがけない形で暇つぶしになったな。

「「決闘!!」」

闇の決闘者　ＬＰ　４０００

爽児　ＬＰ　４０００

「先攻は私だ。ドロー。私は手札抹殺を発動。お互いのプレイヤーは手札を全て捨て、捨てた枚数分デッキからカードをドローする。私はインヴェルズの魔細胞を手札から特殊召喚。」

インヴェルズの魔細胞　ＤＥＦ　０

「インヴェルズだと!?あれは・・」

「現世でのカード・・・と言いたいのか?ふふふ、私も貴様と同じ転生者。私は魂を闇に売り、この世界の神となる。私はインヴェルズの魔細胞を生贄にインヴェルズ・フライを生贄召喚。」

インヴェルズ・フライ　ＡＴＫ　２３００

〜俺はＤＵＥＬ　ＴＥＲＭＩＮＡＬのカードにあまり詳しくないけどそんなカードあったか?〜

「インヴェルズ・フライの効果を発動。インヴェルズと名のついたモンスターを生贄に召喚したこのモンスターは１０００ポイント払うことで相手の手札を確認し、その中から１枚捨てることが出来る。」

〜ピーピングにハンデスかよ。〜

爽児は手札を公開する。ドラゴニック・タクティクス、ライトパルサー・ドラゴン、エクリプス・ワイバーン、ミンゲイドラゴン、竜の魔眼の５枚だ。

「私はドラゴニック・タクティクスを墓地へ。」

インヴェルズ・フライが爽児の元に飛んでいきカードを叩き落とす。

「私はカードを１枚セットしターン終了だ。」

「俺のターン、俺はミンゲイドラゴンを守備表示で召喚。」

ミンゲイドラゴン　ＤＥＦ　４００

「俺は竜の魔眼を発動。伏せカードを破壊！」

「ふん、所詮は子供。さっき手札を見たばかりなのにそう易々と破壊させるわけないでしょう。私は速攻魔法侵略の一手を発動します。インヴェルズ・フライを手札に戻しカードを１枚ドロー。」

「カードを１枚セットしターンエンド。」

「ふふふ、ドロー。私は墓地のインヴェルズの斥候の効果を発動します。自分のフィールドに魔法・罠が無い時このカードは墓地から蘇る。」

インヴェルズの斥候　ＤＥＦ　０

「そして私はインヴェルズの斥候を生贄にインヴェルズ・モースを生贄召喚。」

インヴェルズ・モース　ＡＴＫ　２４００

「インヴェルズと名のついたモンスターを生贄に生贄召喚されたインヴェルズ・モースの効果発動。１０００ポイントライフを払い、相手フィールドのカードを２枚手札に戻す。」

闇の決闘者　ＬＰ　３０００⇒２０００

インヴェルズ・モースが突風を放ち、ミンゲイドラゴンと伏せカードを手札に戻す。

「ふふふ、ダイレクトアタック。」

「ぐはぁ」

爽児　ＬＰ　４０００⇒１６００

〔何だこの尋常じゃない痛みは・・・・〕

「ふふふ、こらえないほうがいいですよ。闇のデュエルにおいてライフポイントは命そのもの。あなたは今の一撃で命の半分以上を削

られた。」

〜くそ、想像以上だ・・よくアニメでは皆耐えてるな・・・・〜

「ターンエンドです。最もあなたがターンを開始できるかどうかは疑問ですがね。」

「馬鹿言え。俺のターン、ドロー！俺はミンゲイを再び召喚。」

ミンゲイドラゴン　ＤＥＦ　４００

「カードを2枚セットし、ターン・・・エンドだ・・・ハァハァ。」

〜やべぇ、視界も歪んできたし、立ってられねぇ。〜

「ふふふ、もう限界ですか？私のターン、・・・一応聞いて置きましょうか。降参しますか？降参だったらせめて楽に死ねますよ。」

「ふざけるなよ。そんなもん・・・誰が・・・」

「ふふふ、そうですか。ではその心意気を砕いて差し上げましょう。私は手札から大寒波を発動します。よってお互いは魔法・罠が発動できない。」

爽児のフィールドの伏せカードが凍りつく。

「さらに私はインヴェルズ・モースを生贄にささげインヴェルズ・マディスを生贄召喚。」

インヴェルズ・マディス　ＡＴＫ　２２００

「インヴェルズ・マディスの効果を発動。ライフを１０００払い墓地のインヴェルズと名のつくモンスター1体を蘇生します。蘇れインヴェルズ・モース。」

闇の決闘者　ＬＰ　２０００⇒１０００

インヴェルズ・モース　ＡＴＫ　２４００

「インヴェルズ・モースでミンゲイドラゴンを破壊。」

「クソッ！」

「ふふふ、終わりです。インヴェルズ・マディスでダイレクトアタック。」

「ウワァァァ」

爽児　ＬＰ　１６００⇒０

爽児は闇の中で倒れ、意識を失う。本来ならばここで命を失うはずだが・・・

「・・・これは偽りの闇。ダメージこそ本物だが命までは奪いはしない。黒鉄爽児・・・所詮この程度でしたか。この程度では本当の『闇』の中で生き残れませんよ。」

そう言い残し謎のデュエリストは闇の中に消えていった。

ーーー

ーーーーーーーーー

「・・・じ・・・・・・爽児！！・・・・・・・・・おい、爽児！！！！」

ん、ここはどこだ。俺は確か・・・

「ったく、爽児どうしたんだ？こんなとこで寝てたら風邪引くぞ。」

「ここは・・・・ブルー寮か？」

「当たり前だろ、他にこんなでっかい建物あるかよ？どうしたんだよ、お前？」

適当にごまかして俺は十代と分かれた。夢だったのか？いや、違う。夢にしては鮮明すぎだし、痛みがまだ残ってる。それに何より俺のデュエルディスクにセットされてたカード、くず鉄のかかしとドラゴン・エヴォリューションは俺があのデュエリストに封じられたカード。あいつは見逃してくれたってことか？いいや、それとも・・・・・。

試行錯誤しても何も思いつかず、予想以上にダメージを負ってた爽児は部屋に戻ると吸い込まれるようにベッドに横になった。

VS闇の決闘者（後書き）

今日の最強カードはインヴェルズの斥候。
まずは効果から見てみましょう。

効果モンスター
星１／闇属性／悪魔族／攻　２００／守　　０
自分フィールド上に魔法・罠カードが存在しない場合、
自分のメインフェイズ１の開始時にのみ発動する事ができる。
墓地に存在するこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する。
この効果を発動するターン、自分はモンスターを特殊召喚する事はできない。
このカードは「インヴェルズ」と名のついたモンスターのアドバンス召喚以外のためにはリリースできず、シンクロ素材とする事もできない。
（遊戯王カードｗｉｋｉより）

低ステータス、恵まれた種族を持つこのカードは制約付の黄泉ガエル的なものです。実質インヴェルズ以外に使用方法がないですけど、毎ターンの生贄確保は非常に優秀でインヴェルズを組むなら間違いなく必須カードです。しかし蘇生したターンは特殊召喚ができないのでインヴェルズ・マディスとの相性は悪いので注意。

さて初の闇のデュエルで心身共々傷だらけになってしまった爽児。
デュエルが怖くなった爽児の前に意外な人物が・・・

VS学園最強の男（前編）（前書き）

こんにちは、千です。

今回は挫けた爽児が立ち直る回です。そのきっかけとなるのは・・・

それではどうぞ

VS学園最強の男（前編）

〜インヴェルズ・マディスでダイレクトアタック！！〜

〜ぐわぁぁぁぁぁぁぁ〜

「あぁぁ、・・・・ハァハァ、・・・・・またこの夢か。」

俺は闇のデュエルの一件以来ずっとあの日のことを夢で見てる。
それだけ人生初の文字通り『命懸け』のデュエルが印象深かったことだろう。
しかしこのデュエルが与えた影響はそれだけではなかった。

「なぁ、爽児、デュエルしようぜ。」

「悪い、ちょっと今日は無理なんだ。」

「爽児君、デュエルしてくれる？」

「ゴメン。またいつかな。」

このように爽児は無意識の内にデュエルが怖くなっていたのだ。
よって爽児は今までは快く受けてたったデュエルは次々と断っていったのだった。
こんな状況は1週間も続き、彼はひたすらデュエルを避け続け、逃げていた。

〜いつまで俺はこんなことをするんだ！分かってるのに、デュエルディスクを構えることが怖い。〜

何もすることがないから部屋に戻ろうとすると1通の手紙がドアの下に置いてあった。

「今日の21時に灯台に来い。」

たったそれだけのことが書いてあるだけだった。

〜またデュエルの誘いか？十代たちにしては結構回りくどいな・・〜

本来デュエルから逃げたい爽児はこのような誘いには乗らないはずだが、不思議と誰が待ってるのかが気になり灯台に向かうことに決意した。

〜どうせデュエルだったら無理だって断ればいいしな。・・・けど一応デッキは持ってくか。〜

本当にデュエルする気がないならデッキを置いとけばいいものも、不思議と爽児は無意識にデッキをポケットにしまった。

ーーー

「確かに最近の爽児はデュエルを避けてる気がするわ。実技なんて本来なら十代並にテンションが高いはずなのに、最近は理由を付けて見学ばっかだし。」

全員頷く。やはり爽児の不可解の行動はちゃんと見られてたのである。

「どうすれば前みたいに楽しそうにデュエルする爽児君が見れるんだろう？」

「楓さん、そもそも何で爽児様はデュエルを避けるようになったのでしょうか？」

「モモエさん、よく分からないの。いつの間にかあんな感じで・・・。」

皆「う～ん」と唸り声をあげ必死に原因を模索するものも、まったく思い浮かばない。

それはそうだろう。「命懸けのデュエルをして負けてデュエルする気がなくなった。」なんて誰が予測できるのか。

「でも爽児もデュエリスト。もしすごい強いデュエリストを目のあたりにしたら奮い立つんじゃないの？」

「でも明日香ちゃん、」

最近このＫＫＫで仲が深まったせいか、楓は明日香のことを明日香『さん』ではなく明日香『ちゃん』と呼ぶようになった。

「十代君だって爽児君に勝てないんだよ。そう簡単に爽児君よりも強いデュエリストを呼んでこれるの？」

もっともな質問だ。基本的にとんでもない実力を持つ爽児にはもはや学園に敵と呼べる物自体が少ない。モモエとジュンコも頷く。

「その点に関しては大丈夫。私に任せて。いい当てがあるから。そこでどうやって爽児を呼び出すかなんだけど・・・」

その内容は簡単で置手紙で指定の場所へ行かせるという古典的な作戦だった。

しかしちゃんとした裏付けがあり明日香曰く「もしＰＤＡで呼び出したらデュエルの誘いだと分かってこないかもしれない。だけど手紙だったら誰が差し出したかわからないから興味が出てちゃんと行く。爽児ならば一応デュエルディスクぐらいなら持って来るでしょう。」らしい。

しかし明日香の当てのデュエリストは2日後しか空いてなくて、仕方なく決行は明後日にした。

そして楓たちは計画通りに実行し、約束の場所である灯台へ先回りした。

回想終了

ーーー

すためにある作戦をしてる。
だけど緊張しますよ～。だって明日香ちゃんが呼んだデュエリストってとんでもない人ですから。
予定では少し後の登場になりますけど。

「これはどういうことだ、楓？」

今灯台には私と爽児君の二人しかいません。

「はっきりいいますよ。最近の爽児君はデュエルから逃げてませんか？」

「！！」

「何かあったんですか・・・いや、何かあったんでしょう。別に私も何かは聞きませんけど私は爽児君に元気を出して欲しいんです。前みたいに笑いながらデュエルする爽児君が見たいんです。」

涙声になって訴える楓に対しただ呆然と立ってるだけの爽児。

「・・・」

「だから余計なお世話だと分かってても爽児君に元気を取り戻してもらうために、爽児君にはデュエルしてもらいます。」

「・・楓とか？」

「いいえ、違います。相手は「俺だ！！」・・来ましたね。」

そこに威風堂々と立つのは学園最強でカイザーと呼ばれる男、丸藤

亮だった。

「お前が噂に聞く最強の１年、黒鉄爽児か。」

「最強かどうかなんてしらねぇけどな・・」

「まぁ、何でもいい。俺は今１人のデュエリストとしてお前にデュエルを申し込む。どうだ、黒鉄爽児、俺とデュエルしないか？」

「俺は・・・」

〜いつまで逃げるんだ？回りにこんだけ迷惑かけて・・〜

「あんたとのデュエル・・・受けて立つ！！」

「ふん、そうか。よし俺のサイバー流の力を見せてやろう。」

「「決闘」」

丸藤亮　ＬＰ　４０００

黒鉄爽児　ＬＰ　４０００

〜よかった。爽児君がちょっと元気になった。〜

「俺のターン、ドロー。俺は魔法カードタイムカプセルを発動。デッキのカードを選択し、裏側表示で除外。２ターン後にそのカードを手札に加える。俺はサイバー・フェニックスを守備表示で召喚。」

サイバー・フェニックス　ＤＥＦ　１６００

「カードを2枚セットしターンエンドだ。」

「俺のターン、俺はゴーレム・ドラゴンを守備表示で召喚する。」

ゴーレム・ドラゴン　ＤＥＦ　２０００

「ターン終了だ。」

〜えっ？いつもなら一気に上級モンスターを展開か、伏せカードを伏せるのに・・・〜

今私は灯台から離れて灯台がぎりぎり見えるところまで移動した。

「それで終わりか？俺のターン、俺は魔法カードニュータイプ・テクノロジーを発動。フィールド上の機械族モンスターを生贄にささげ、通常召喚の権利を放棄する代わりにそのモンスターのレベル＋１のレベルを持つ機械族モンスターを2体まで特殊召喚。来い、サイバー・ドラゴン！！」

サイバー・ドラゴン　ＡＴＫ　２１００×２

「サイバー・ドラゴンで攻撃、エヴォリューション・バースト！」

「くっ、」

「ダイレクトアタックだ、エヴォリューション・バースト！」

「うわぁぁぁ」

爽児　ＬＰ　４０００⇒１９００

「黒鉄爽児、」

「爽児でいい。」

「そうか爽児。お前は何を迷っているんだ？俺はお前が三沢とやったデュエルを見せてもらった。お前はあの時は絶体絶命の窮地から一気に逆転し勝利した。あの時のデュエルに対する熱意が今のお前には感じられない。」

「・・・」

「何に挫折したのかは知らないが、負けたら苦しい。誰だってそうだ。しかしその苦痛を乗り越えて始めて人は成長するんだ。挫けたからなんだ、負けたからなんだ、苦しいからなんだ。どんな逆境でも跳ね返して見せろ！！」

〜そうだ、俺はずっと逃げてたんだ。デュエルからじゃない、負ける苦しみからだ。すだ、いいじゃねぇか、あの時の闇の決闘は負けたけど、次は勝てばいい。もっともっと強くなって、皆を守れるほど強くなればいいんだ。」

「・・・カイザー、感謝するぜ。あんたのおかげで目が覚めた。」

「感謝するなら楓さんに感謝するんだな。彼女はずっとお前のことを気にかけてた。心配させた分ちゃんと謝って礼を言うんだな。」

「あぁ、分かった。」

「俺はターンエンドだ。見せてみろ、お前のデュエル！！」

「言われなくてもそのつもりだ！俺のターン、ドロー！！俺はバイス・ドラゴンを手札から特殊召喚。このモンスターは相手フィールド上にのみモンスターが存在する場合、手札から攻守を半分にして特殊召喚できる。」

バイス・ドラゴン　ＤＥＦ　１２００

｛効果だけだったらサイバー・ドラゴンの下位互換。だが、闇属性にドラゴン族と恵めれたステータスを持ってるな。｝

「俺はミンゲイドラゴンを召喚。」

ミンゲイドラゴン　ＤＥＦ　４００

「俺は魔法カード、ドラゴニック・タクティクスを発動。俺のフィールドの２体の竜を墓地に俺の切り札、ライトエンド・ドラゴンを特殊召喚！！来いライトエンド！！！」

ライトエンド・ドラゴン　ＡＴＫ　２６００

「カイザー、見せてやるよ、俺の全力を！」

ＶＳ学園最強の男（前編）（後書き）

今回はいつもよりちょっと短いかな？

今回の最強カードは「サイバー・ドラゴン」

効果モンスター
星５／光属性／機械族／攻２１００／守１６００
相手フィールド上にモンスターが存在し、
自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、
このカードは手札から特殊召喚できる。
（遊戯王カードｗｉｋｉより）

光属性・機械族と恵まれたステータスをもち、半上級モンスターながらも容易な召喚条件を持ち、環境に大きく影響を与えたのがこの「サイバー・ドラゴン」。このモンスターの融合体としてサイバー・ツインやエンド、キメラテック・オーバーやフォートレスなど、さらに自身の名前を「サイバー・ドラゴン」として扱うプロト・サイバーやツヴァイなど多種多様なサポートカードがあるカードです。機械族なので「リミッター解除」などに対応し、融合体は「パワー・ボンド」に対応するパワーカードです。

次回、爽児ｖｓカイザー
真の学園最強の王者は誰だ？

それでは次回をお楽しみに

VS学園最強の男（後編）（前書き）

こんにちは千です

意外とあっさり立ち直っちゃいましたね爽児・・・

立ち直って全開の爽児に学校の頂点はどう戦うのか？

そして勝利の女神はどっちに微笑む？

どうぞ、お楽しみください

VS学園最強の男（後編）

「俺はライトエンド・ドラゴンでサイバー・ドラゴンを攻撃、そしてその瞬間ライトエンドの効果発動。このモンスターと相手モンスターの攻撃力を下げる。ライト・イクスパンション！！ライトエンドの攻撃、シャイニングサプリメイション！！」

ライトエンド・ドラゴン　ＡＴＫ　２６００⇒２１００

サイバー・ドラゴン　ＡＴＫ　２１００⇒６００

ライトエンド・ドラゴンの光線がサイバー・ドラゴンを弱体化させ、消滅する。

丸藤亮　ＬＰ　４０００⇒２５００

「さらに俺は速攻魔法無限追撃を発動。自分フィールドのモンスターが相手モンスターを戦闘で破壊した時、もう一度攻撃することが出来る。２体目のサイバー・ドラゴンに攻撃、ライト・イクスパンション！！シャイニングサプリメイション！！」

ライトエンド・ドラゴン　ＡＴＫ　２１００⇒１６００

サイバー・ドラゴン　ＡＴＫ　２１００⇒６００

「クッ！」

丸藤亮　ＬＰ　２５００⇒１５００

「カードを1枚セットしてターンエンドだ！！」

爽児
ＬＰ　１９００
手札　１枚
魔法・罠　１枚セット
モンスター　ライトエンド・ドラゴン　ＡＴＫ　１６００

丸藤亮
ＬＰ　１５００
手札２枚
魔法・罠　タイムカプセル
モンスター　なし

〜爽児君が逆転した。やっといつもの爽児君に戻ってくれた。〜

「俺のターン、ドロー。俺はタイムカプセルの効果を発動。発動から2回目のスタンバイフェイズ時にデッキからサーチしたカードを手札に加える。」

地中から2ターン前の亮が埋めたタイムカプセルが開く。

「俺は魔法カードバイオレンス・リペアを発動する。俺は2ターン分の通常召喚権を放棄し、墓地のモンスターを2体特殊召喚。俺が召喚するのは勿論サイバー・ドラゴン2体だ。」

サイバー・ドラゴン　ＡＴＫ　２１００×２

「この効果で召喚したモンスターの効果は無効にされ、攻撃宣言と表示形式の変更を行えない。」

〔何のためにこんなデメリットを・・まさかこのターンで決める気なんじゃ・・ってことはまさかタイムカプセルで手札に加えたカードは！？〕

「その顔、気づいたようだな。魔法カードパワー・ボンド発動！俺は場の2体のサイバー・ドラゴンと手札のサイバー・ドラゴンを融合。来い、サイバー流の切り札、サイバー・エンド・ドラゴンを召喚。パワー・ボンドの効果で召喚されたモンスターの攻撃力は倍となる。」

サイバー・エンド・ドラゴン　ＡＴＫ　４０００⇒８０００

「サイバー・エンドでライトエンド・ドラゴンを攻撃、エターナル・エヴォリューション・バースト！！」

「俺は罠カード、くず鉄のかかしを発動。相手の攻撃を1回無効にする。」

サイバー・エンド・ドラゴンが放った巨大な光線がかかしの形の鉄の塊に防がれる。

「さすがだな、だが俺はお前の1歩先を行く。俺は融合解除を発動。墓地のサイバー・ドラゴン3体を特殊召喚。コレでくず鉄のかかしも使えまい。」

サイバー・ドラゴン　ＡＴＫ　２１００×３

「俺の負けか。」

「サイバー・ドラゴンでライトエンド・ドラゴンに攻撃、エヴォリューション・バースト！」

「ライトエンドの効果で攻撃力を下げる。」

ライトエンド・ドラゴン　ＡＴＫ　１６００⇒１１００

サイバー・ドラゴン　ＡＴＫ　２１００⇒６００

丸藤亮　ＬＰ　１５００⇒１０００

「２体目のサイバー・ドラゴンで攻撃、エヴォリューション・バースト！！」

「ライトエンド、効果発動。」

ライトエンド・ドラゴン　ＡＴＫ　１１００⇒６００

サイバー・ドラゴン　ＡＴＫ　２１００⇒６００

弱体化した２体のモンスターは相打ちする。

「これで終わりだ、３体目のサイバー・ドラゴンで攻撃、エヴォリューション・バースト！！！」

爽児　ＬＰ　１９００⇒０

同じ負け。闇の決闘者の時も今の亮の時も同じ敗北。だけど不思議と爽児は清々しかった。そして・・

「楽しかったぜ、カイザー！」

デュエルがまた楽しくなった。

「あぁ、俺も楽しかった。爽児また俺に挑戦して来い、待ってるぞ。」

ーーー

コンコン

「開いてるぞ。」

部屋の中から入る許可が出たので楓は爽児の部屋へと入った。
ここに来たのは初めてでも2，3回目でもない。
楓は月1テストなどはここで爽児に勉強を教えてもらい、暇なときは遊びに来てデュエルするなど気軽にこの部屋に入ってきていた。
しかしそれは爽児が好きだと自覚する前の話、爽児を異性として意識しだした今楓は妙に緊張していた。

「話って何？」

「カイザーから聞いたんだけど、俺があんなことになってる間ずっと心配してくれたんだな。ありがとう。」

「いいよ、そんなの。私達友達でしょ。困ってるときならいつでも助けるよ。」

「頼もしいな。それが言いたいことの1つでもう一個は、特に十代とか明日香には秘密にしてくれるか？」

「う、うん。」

二人きりの秘密に妙に緊張する楓。

「実は・・・」

爽児はすべてを語った。あの日に暇をしてたら闇の決闘者に会って、痛みが現実となって、完膚なきまで叩きのめされて自信を砕かれた

こと、だけど奇跡的に生きていたこと。すべてだ。

「それでその決闘者のデッキはなんだったの？」

「・・・インヴェルズだ。」

楓は驚きの表情を隠せず、同時に爽児は確信した。

「お互い薄々気づいてると思うけど、俺はもともとこの世界には存在しない、いわゆる転生者なんだ。なぁ楓お前も「うん、私も元の世界から転生したの。」・・・・やっぱりそうか。」

その後二人は自分達がいつ転生したか、ちなみにほぼ同時期だった、どんな感じだったかなどを話し合った。

「・・・あとこんな時に言うのも何なんだけど、もう一個重要の話がある。」

爽児の目が突然真剣になって楓を見つめた。

「俺と・・・付き合ってくれないか？」

VS学園最強の男（後編）（後書き）

ついに爽児と楓が転生の話をカミングアウト、二人の過去編、というより転生前の話、転生がどんな感じだったかっていうのはいつかやります。（無責任）

今回の最強カードは「バイオレンス・リペア」オリカです
まずは効果から

通常魔法
自分フィールド上にモンスターが存在しない場合のみこのカードを発動することが出来る。このカードを発動する場合、自分はこのターンと次の自分のターン召喚・反転召喚をすることができない。墓地に存在するレベル5以下の機械族モンスターを2体攻撃表示で特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターは効果が無効にされ、攻撃宣言と表示形式の変更が出来ない。次の自分のターンのエンドフェイズ時にこの効果で特殊召喚したモンスターを破壊する。

効果自体はレベル5以下機械族モンスターを対象とした死者蘇生2回分と同じ。しかし2ターン分の通常召喚権を失う上に攻撃、効果発動、表示形式の変更のいずれも出来ないので不便。そのモンスターが破壊されたら次のターンはがら空きでピンチに陥るハイリスク・ハイリターンなカードです。もし使うのなら作中のように1ターンで倒せる状況にしましょう。

次回は第1章最終話。爽児の告白はどうなる？そして・・・

VS十代&明日香（前書き）

こんにちは、千です。

今回でついに第一章完結です。

ここまで読んでくれた方々ありがとうございます。

それではお楽しみ下さい。

VS十代&明日香

「俺と付き合ってくれないか？」

「・・・えっ？」

楓は自分の後ろに振り向いた。勿論この部屋には爽児と楓しかいない。

「・・・私？」

「うん、そうだ。」

爽児は堂々と楓の目を見つめて言うも、頬が赤くなってるのは明らかだった。

その瞬間

「グスッ・・・」

楓が泣き出した。

「か、楓？ごめん、別に泣かせるつもりで行った訳じゃなくて・・・。ゴメン、忘れてくれ・・」

「違う、違うの。私も爽児君のことが好きだから、ずっと好きだったから、爽児君も私と同じ気持ちでいてくれて、嬉しくなって・・・」

「えっ、それじゃあ、」

「私なんかでよかったら、グスッ、付き合ってください。」
そういい終えると楓は爽児の胸に飛びこみ、抱きついて、爽児も無言で腕を楓の背中に回した。
お互い一言も喋らなかったけど思いはちゃんと通じ合ってた。
こうして爽児と楓はカップルとなったのである。

〜よく考えたらＫＫＫで告白の練習した意味なかったなぁ。〜

ぼんやり爽児の胸の中でこんなのんきなことを考えてた楓であった。

この日を境に二人の距離が縮まったのは明らかだった。告白の事実を知ってるのはＫＫＫのメンバーだけだったが（楓が折角協力してくれたのだからと思い結果を教えた。ちなみに楓がＫＫＫのことを話したら爽児は大爆笑したという）毎日女子寮近くまで迎えに行って一緒に登校したり、たまに手をつないだりする様子は瞬く間に噂され、学園中に1週間ぐらいで広まった。（このため、爽児のファンクラブは大打撃を受け、恵は2日間ショックで寝込んだという）

ーーー

「爽児君、がんばろっ！」

今の俺には楓がいる。転生前は俺もあの負け組みだったが、今はリア充だぜ！まわりが「ヒューヒュー」とか「熱いね」とか言ってるけど嫉妬してるだけだろ。けどそれに照れてる楓もかわいいけどな。

デュエル形式はトーナメント戦方式で４ブロックでデュエル、ブロック優勝者がもう一人のブロック優勝者と、すなわち準決勝を行い、そして最終的にブロック優勝者に勝った人同士で結晶のデュエルするというオーソドックスなタイプだ。俺と楓はぐんぐん勝ち進んで行き、ブロック優勝は勿論、準決勝も余裕で勝ちだった。結晶で俺達の前に立ちはだかった相手は・・・

「爽児！楽しいデュエルしようぜ。前とは違って負けねぇぞ！」

「前の偽ラブレターの一件の時とは別のメンバーでタッグやるのね。ちょっと楓は最近幸せすぎだから軽く不幸のどん底に落としてあげましょうか。」

あいつはなんてことを言うんだ。十代も苦笑いしてるぞ。

「「「「決闘」」」」

爽児&楓ペア　ＬＰ　４０００

十代&明日香ペア　ＬＰ　４０００

「先攻は貰うぜ、ドロー。俺はサイレント・マジシャンＬＶ４を攻撃表示で召喚だぜ。」

サイレント・マジシャンＬＶ４　ＡＴＫ　１０００

「「サイレント・マジシャン（だと・ですって）」」

そう、このデッキは楓とのタッグ専用デッキ。前十代とやって気づいたんだけど俺のドラゴンデッキは大量のモンスター展開と罠カードがあるからパートナーのジャマをするんだよな。だから調整もかねて俺も魔法使い族を組んでみたら面白かった訳だ。

「俺は魔法カード二重召喚で２回の通常召喚をする。俺は王立魔法図書館を守備表示で召喚。」

王立魔法図書館　ＤＥＦ　２０００

魔力カウンターを回すんだったら必須カードだよな。・・・多分（作者談）

「俺は魔法カードレベルアップを発動。サイレント・マジシャンを進化させる。来い、サイレント・マジシャンＬＶ８！！

サイレント・マジシャンＬＶ８　ＡＴＫ　３５００

白い服の美しい女魔術師がフィールドに現われる。

「魔法カードを発動したことにより王立魔法図書館は魔力カウンターを貯める。」

王立魔法図書館

魔力カウンター　０⇒１

「さらに俺は強欲な壺で2枚ドロー、天使の施しで3枚ドローして2枚捨てる。そして魔力カウンターを貯めるぜ。」

王立魔法図書館
魔力カウンター　1⇒2⇒3

「王立魔法図書館の魔力カウンターを3つ取り除くことでカードを1枚ドロー。カードを2枚セットしてターンエンドだ。」

王立魔法図書館
魔力カウンター　3⇒0

「さすが爽児。使い慣れてないデッキをここまで回す技術はさすがとしかいいようがない。」

観客席の三沢が解説してくれてる。ちなみに三沢のペアは恵で俺らとデュエルしたがスピリットの場もちの悪さを三沢が克服、三沢の火力の低さを恵が克服となかなかいいペアだったが、どちらも俺達の魔法使い族には勝てなかった。

「俺のターン、俺は融合を発動するぜ。手札のバーストレディとフェザーマンを融合してフレイム・ウィングマンを召喚するぜ。」

E・HEROフレイム・ウィングマン　ATK　2100

「フレイム・ウィングマンで王立魔法図書館を攻撃、「させないぜ俺は魔法カードディメンション・マジックを発動、フィールド上の魔法使い族モンスターを生贄にささげ手札から魔法使い族モンスターを特殊召喚。そのあと相手のモンスターを1体破壊する。俺が召

喚するのは魔法の操り人形だ。」」

２体のモンスターが棺おけに消し去られ、新しい棺おけから武器を持った操り人形が現われる。

魔法の操り人形　ＡＴＫ　２０００

「ちぇ、カードを１枚セットしてターンエンドだ。」

「私のターンです、ドロー。私はテラ・フォーミングを発動します。デッキからフィールド魔法の魔法都市エンディミオンをサーチします。そして発動。」

「魔法カードが発動されるたびに魔力カウンターが貯まるぜ。」

魔法の操り人形　ＡＴＫ　２０００⇒２２００⇒２４００
魔力カウンター　０⇒１⇒２

「攻撃力が上がった？」

「十代、魔法の操り人形は貯めた魔力カウンターの数×２００ポイントの数値攻撃力をあげるんだぜ。」

「私は魔力掌握を発動します。魔法都市エンディミオンにカウンターをのせて新たな魔力掌握をサーチします。魔力掌握は魔法カード、よって魔力カウンターがのります。」

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　０⇒１⇒２

魔法の操り人形　ＡＴＫ　２４００⇒２６００
魔力カウンター　２⇒３

「私はクルセイダー・オブ・エンディミオンを召喚します。」

クルセイダー・オブ・エンディミオン　ＡＴＫ　１９００

「カードを３枚セットしターンエンドです。」

「私のターン、ドロー。私は儀式魔法機械天使の儀式を発動するわ。手札からレベルが８になるように生贄をささげ、サイバー・エンジェル－荼吉尼－を儀式召喚。」

サイバー・エンジェル－荼吉尼－　ＡＴＫ　２７００

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　２⇒３

魔法の操り人形　ＡＴＫ　２６００⇒２８００
魔力カウンター　３⇒４

「サイバー・エンジェル－荼吉尼－の効果発動。相手は自身のモンスターを選んで破壊する。」

「・・・私はクルセイダー・オブ・エンディミオンを破壊します。」

「私はリチュアル・ウェポンを装備、儀式モンスターの攻撃力を１５００ポイントアップするわ。」

サイバー・エンジェル－荼吉尼－　ＡＴＫ　２７００⇒４２００

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　３⇒４
魔法の操り人形　ＡＴＫ　２８００⇒３０００
魔力カウンター　４⇒５

「私は魔法の操り人形を攻撃するわ。」

サイバー・エンジェル－茶吉尼－が飛び上がって攻撃しようとするが

「爽児君のモンスターは破壊させません。私は魔力集結を発動します。さらにチェーンして漆黒のパワーストーンを2枚発動します。対象は魔法の操り人形。」

漆黒のパワーストーン×２
魔力カウンター　０⇒３⇒０

魔法都市エンディミオン
魔力カウンター　４⇒０

魔法の操り人形　ＡＴＫ　３０００⇒４２００⇒５０００
魔力カウンター　５⇒１１⇒１５

「サイバー・エンジェル－茶吉尼－の攻撃力を上回ったですって？」

サイバー・エンジェル－茶吉尼－は勢いよく攻撃するもパワーアップした魔法の操り人形に破壊される。

「くっ、リチュアル・ウェポンの効果で儀式魔法を1枚手札に加え

る。私は機械天使の儀式を手札に加える。メインフェイズ２にサイバー・フェアリーを召喚。」

サイバー・フェアリー　ＤＥＦ　１２００

「カードを１枚セットしたターン終了よ。」

「俺のターン、俺は魔法の操り人形の効果発動。このカードにのってる魔力カウンターを２つ取り除き空いてモンスターを破壊。俺はサイバー・フェアリーを破壊する。」

魔法の操り人形　ＡＴＫ　５０００⇒４６００
魔力カウンター　１５⇒１３

「サイバー・フェアリーが破壊されたとき、墓地のサイバー・エンジェルを手札に加える。私はサイバー・エンジェル－荼吉尼－を手札に加える。」

「俺は魔法の操り人形でダイレクトアタック。」

「俺はヒーロー見参を発動。さぁ選べ爽児。」

「勘で左のカード。」

「残念、クレイマンを守備表示で召喚。」

Ｅ・ＨＥＲＯクレイマン　ＤＥＦ　２０００

「そのまま破壊だ。」

操り人形が振り下ろした剣がクレイマンを真っ二つにする。

「サイレント・マジシャンＬＶ８で攻撃、サイレントバーニング！！」

すっかり空気と化してたサイレント・マジシャン

「うわぁ」

十代＆明日香ペア　ＬＰ　４０００⇒５００

「ターンエンド。」

「く、俺のターン、俺は魔法カードミラクル・フュージョンを発動。墓地のＥ・ＨＥＲＯをゲームから除外して融合するぜ。俺はバースト・レディとクレイマンを融合。来い、ランパートガンナー！！」

Ｅ・ＨＥＲＯランパートガンナー　ＤＥＦ　２５００

魔法都市エンディミオン

魔力カウンター　０⇒１

魔法の操り人形　ＡＴＫ　４６００⇒４８００

魔力カウンター　１３⇒１４

「俺はランパートガンナーの効果発動。このカードが守備表示の場合、守備表示の状態で相手プレイヤーをダイレクトアタックする事ができる。その場合、このカードの攻撃力はダメージ計算時のみ半分になるけどな。ランパート・ショット！！」

「させない、俺は攻撃の無力化でバトルフェイズを終わらす。」

「通らないなぁ。ターンエンドだ。」

「私のターン、私はメガトン魔導キャノンを発動します。魔法の操り人形のカウンターを１０個取り除き相手のカードを全滅させます。」

魔法の操り人形　ＡＴＫ　４８００⇒２８００⇒３０００
魔力カウンター　１４⇒４⇒５

「サイレント・マジシャンＬＶ８でダイレクトアタック、サイレント・バーニング！！」

「うわぁ（きゃぁぁ）」

十代＆明日香ペア　ＬＰ　５００⇒０

「本日の実技タッグデュエル大会はセニョール爽児＆楓ペアの優勝なノーネ。」

客席はいつの間にか生徒で満席、大歓声を浴びた。
やっぱデュエルは楽しいぜ。

さて・・・これからはセブンスターズとの戦い。用心しなきゃな。

ＶＳ十代&明日香（後書き）

ぶっちゃけサイレント・マジシャンいらねぇ。個人的にあのカードが好きで出したんですけどまったく活かせてない・・・ｏｒｚ。

さて・・今日の最強カードは「サイレント・マｊ「じゃなくて魔法の操り人形だろ、このゴミ作者が・・。サイレント・マジシャンもっとちゃんと書けよ。・・・今あれがものすごい落ち込んでるから今回は俺がやるか。まずは効果から見てみようぜ。」

効果モンスター
闇属性／魔法使い族／星５／ＡＴＫ　２０００／ＤＥＦ　１０００
このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分または相手が魔法カードを発動する度に、このカードに魔力カウンターを１つ置く。このカードに乗っている魔力カウンター１個につこ、このカードの攻撃力は２００ポイントアップする。また、このカードに乗っている魔力カウンターを２つ取り除くことで、フィールド上に存在するモンスター１体を破壊する。

攻撃力２０００はマジシャンズ・サークルで呼び出せる最高攻撃力なので魔法使い族デッキに１枚ぐらい入れても悪くないんじゃないかな。効果を見てみると、まずは魔力カウンターを乗せる永続効果。これが魔力カウンター系の魔法使い族には大事なんだ。後者二つの効果はどっちもこの効果が基となってる。次は魔力カウンターの数に応じて攻撃力を増強する効果。そして最後は魔力カウンターを取り除きモンスターを破壊する効果。回数制限がなく、楓の魔法都市エンディミオンと組み合わせたらかなりのモンスターが除去できるぞ。けど３番目の効果を使いすぎると攻撃力が下がるから注意だな。

次の章はセブンスターズ編らしいからお楽しみに。それJ「ちょっと、待った！！」「・・・なんだお前まだいたのか・・」「新章に入る前に1章で出てきたオリカをまとめたり登場人物のプロフィールも書くのでお楽しみに。」

「「さようなら～」」

第一章オリカ全集（前書き）

はいこんにちは。千です。
この小説の１章で出てきたオリカは全部書いてるはず。
カード効果と使用者が書いてます。
尚書式は遊戯王カードｗｉｋｉと同じ感じにしてます。

第一章オリカ全集

魔力集結（葉月楓）
通常罠
自分フィールド上の魔力カウンターを乗せることが出来るカードを１枚選択して発動する。フィールド上の魔力カウンターを全て取り除き、取り除いた数と同じ数だけ魔力カウンターを選択したカードに乗せる。

エクプロージョン・エクスペリメント（三沢大地）
通常魔法
自分フィールド上の「オキシゲドン」「ハイドロゲドン」炎属性・炎族モンスターを生贄にささげ手札、デッキ、墓地から「ファイヤー・ドラゴン」を１体特殊召喚する。

ファイヤー・ドラゴン（三沢大地）
効果モンスター
星８／炎属性／炎族／攻２８００／守２６００
このカードは通常召喚できない。
「エクスプロージョン・エクスペリメント」の効果でのみ特殊召喚することができる。１ターンに１度、手札の炎属性・炎族モンスターを墓地に送ることで相手フィールド上にセットされている魔法・罠カード１枚を破壊する事ができる。この効果の発動に対して魔法・罠カードを発動する事はできない。このモンスターがこのカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

竜の咆哮（黒鉄爽児）
カウンター罠

自分フィールド上のレベル7以上のドラゴン族モンスターを生贄にささげる。相手が発動した魔法・罠・モンスター効果を無効にし破壊する。

インヴェルズ・フライ（闇の決闘者）
効果モンスター
星６／闇属性／悪魔族／攻２３００／守　０
「インヴェルズ」と名のついたモンスターをリリースしてこのカードのアドバンス召喚に成功した時、
１０００ライフポイントを払う事で、相手の手札を見る。その後カードを１枚選択し、墓地に送る。

無限追撃（黒鉄爽児）
速攻魔法
自分フィールドのモンスターが相手モンスターを戦闘で破壊したときに発動することが出来る。そのモンスターは通常の攻撃宣言に加えてもう1度攻撃宣言を行える。そうした場合、自分フィールド上の他のモンスターは攻撃することが出来ない。

バイオレンス・リペア（丸藤亮）
通常魔法
自分フィールド上にモンスターが存在しない場合のみこのカードを発動することが出来る。このカードを発動する場合、自分はこのターンと次の自分のターン召喚・反転召喚をすることができない。墓地に存在するレベル５以下の機械族モンスターを2体攻撃表示で特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターは効果が無効にされ、攻撃宣言と表示形式の変更が出来ない。次の自分のターンのエンドフェイズ時にこの効果で特殊召喚したモンスターを破壊する。

リチュアル・ウェポン（天上院明日香）

装備魔法
このカードは儀式モンスターにのみ装備可能。装備モンスターの攻撃力は１５００ポイントアップする。また装備モンスターが戦闘で破壊されたとき墓地の儀式魔法を１枚手札に加えることが出来る。

サイバー・フェアリー（天上院明日香）
効果モンスター
星３／光属性／機械族／攻１０００／守１２００
このモンスターが戦闘で破壊されたとき、墓地の「サイバー・エンジェル」と名のつく儀式モンスターを１枚手札に加える。

第一章オリカ全集（後書き）

意外と多いようで少ないですね。さて、作者千の勝手な独断と偏見で選ぶ第一章オリカ大賞は・・・・・速攻魔法「無限追撃」！！イェ～パチパチ。

その理由はこんなカードあったらいいなって思うのが最も多いのは無限追撃でしたからね。次はオリキャラ名鑑をお送りします。

お楽しみに。

オリキャラ名鑑（前書き）

はい～こんにちは。

オリカ全集に続きお送りするのがこのオリキャラ名鑑！
これはオリカ全集と違い毎章の終わりごとに書いていく訳ではなく、
第2章以降のオリキャラもここに更新されるので、もし連載が続いて
「あれ、こいつ誰だっけ？」
見たいな感じになったらここをご覧あれ。

ではどうぞ。

オリキャラ名鑑

黒鉄爽児

小説の主人公。性別は男、１６歳。好きなものは楽しいデュエル、食事、楓、昼ねで嫌いなものはデュエルや他人を侮辱する人、やたらうるさい人、たいして実力がないのに威張る人。現在葉月楓と交際中。転生者（つまりもともとこの世界にいない人）である。
性格は真面目さとルーズさ、冷静と情熱の二つを持ち合わせてる。
外見はＢＬＡＣＫ　ＣＡＴのトレイン・ハートネットと瓜二つ。
愛用するデッキは「ドラゴン族」。ライトエンド・ドラゴン、ダークエンド・ドラゴン、光と闇の竜など重量のドラゴンを大量展開する重火力なビートダウン。アカデミアの中では無敵で、唯一丸藤亮に負けたことを除けば、学園で負けたことがない。（闇の決闘者にも敗北。）
また上記のドラゴン族デッキの他に楓の時のタッグのために使われた「魔力カウンター」のデッキも扱う。切り札はサイレント・マジシャン、魔法の操り人形など。それ以外にもデッキをたくさん使った経験があり、三沢曰く「使い慣れてないデッキをここまで回す技術はさすがとしかいいようがない。」だそうだ。

葉月楓

小説のヒロイン。勿論性別は女、１６歳。好きなものは爽児とのデュエル、爽児と一緒にいること、爽児の寝顔を見るなど爽児を溺愛してる。嫌いなものは虫、幽霊や怪談などの怖いもの、テスト、ナルシストなど。現在爽児と交際中。楓も転生者である。
性格はおくびょうで人見知りだけど自分の意見はしっかり持つタイプ。外見はＢＡＢＹ　ＳＴＥＰＳの鷹崎奈津（分からない人はぐぐ

ってね）。スタイルは抜群で明日香にも劣らないプロポーションの持ち主。尚運動神経が悪い。
使用デッキは「魔力カウンター」。魔法都市エンディミオンで大量に魔力カウンターをためるデッキだ。デュエルの腕はかなり高く、明日香に勝るほどだが勉強が苦手で、明日香より成績が低い。

一条恵

小説の準ヒロイン兼恋のライバルになる予定だったが作者の都合によって結局失恋しただけとなったかわいそうなオベリスク女子。１７歳で実は先輩。好きなものは爽児に関する妄想で嫌いなものは楓（嫌いというより嫉妬してるだけ）
堂々としている性格で外見はＴｏｌｏｖｅるの天条院沙希にそっくり。プロポーションもかなり高くて明日香、楓と並び学園でモテる女子ランキングでは常に上位。
使用デッキは「スピリット」で一癖も二癖もあるスピリットを巧みに動かすプレイングは爽児たちを関心されるほど。成績も上の中くらいで頭がいい。

闇の決闘者

作中で始めて爽児を倒した人物。本人は自身が転生者だと言っており、「闇」に魂を売った。神になると豪語するほどの野心があり、実力も十二分。
使用デッキは「インヴェルズ」という生贄召喚主体のデッキ。デッキのプレイングに無駄がなく、生贄召喚の難点である生贄を余裕で確保して上級モンスターにつなげるといった隙のないプレイをする。闇の決闘で爽児から１ポイントも奪われずに勝利するも、爽児の命は取らずに姿を消す、謎が多い男。
外見はＢＬＡＣＫ　ＣＡＴのシャルデン・フランベルグに似ている。

オリキャラ名鑑（後書き）

前書きでもあるようにオリキャラがでれば基本ここに書きますので暇な人は見てくれるとありがたいです。

十代VSダークネス吹雪ーレッドアイズの恐怖ー（前書き）

こんにちは、この度はこんな駄作をここまで読んでくださってありがとうございます。

ちなみに今回からタイトルを「VS～」から少し変えてみます（友人にタイトルが酷いっていわれたから）

では2章のセブンスターズ編の第一話、お楽しみ下さい

十代VSダークネス吹雪ーレッドアイズの恐怖ー

「万丈目準くん、天上院明日香くん、三沢大地くん、遊城十代くん、葉月楓くん、丸藤亮くん、黒鉄爽児くん。今名前を呼ばれた7名は至急校長室へ来ること。」

突然校内放送で今みたいなアナウンスが流れる。アカデミアでもトップレベルの生徒を召集するのは何事だ、と周りは騒いでる。もし俺があいつらの立場でも焦っただろうな。けど俺には原作知識があるからおそらく今のは・・・

「君達は三幻魔というカードを知ってるかね？」

セブンスターズとのデュエルだな。今俺達は校長室にいる。俺と楓以外は三幻魔の存在に驚いたり、そもそも存在自体を知らない（これは十代）など別々なリアクションを取っていた。

「この学園に三幻神に匹敵する力を持つ三幻魔が封印されている。しかしセブンスターズという集団が、三幻魔復活を狙っているとの情報が入った。そこで君達には三幻魔を封印している七精門の鍵を預かって欲しい。」

「ちょっと待ってくだサーイ。」

クロノスが口を挟む。

「なんだね、クロノス先生？」

「なぜそんな危険な事ーを生徒達に任せるノーネ？私達教員が預か

ればいいノーネ。」

クロノス教諭の言うことは正論でぶっちゃけ俺も思ってた。

「私も本当はこんな危険なことを生徒達に任せたくないのだが不本意ながらそうすると七精門の鍵を奪われる可能性が最も低いのだ。七精門の鍵はデュエルで相手から奪うことで手に入る。ここにいる生徒達は私達より遥か上の実力を持つ。この学園を守るためにも生徒達に任せるしかないのです。」

その時カイザーが意味ありげな目線を鮫島校長に送った。たぶん、サイバー流師範である彼が弱いはずがない。なぜ彼が鍵を預からないのかが心底疑問だったんだろう。

「ぐぬぬぬぬ・・・しかし・・・・でも・・・・だけど・・・・・」

クロノスも生徒の心配をしてくれるのは有難いがさすがに彼の実力じゃあなぁ。

仕方ないや、決まりそうにないから俺が切り出すか。

「よくわかんねぇけどこの鍵を守ればいいんだろ？俺はやるぜ。」

そう言って俺は真ん中の鍵をとる。

「爽児君がやるんだったら私も。」

楓も俺のとったやつの横の鍵をとる。

「いいじゃねぇか、面白そうだぜ、セブンなんとかとのデュエル！」

十代がわくわくした口調で言う。

「この万丈目サンダー、鍵は確かに預かった！」

「三幻魔は復活させないわ。」

「うん、俺も頑張らせてもらいます。」

「・・・・」

俺⇒楓⇒十代⇒万丈目⇒明日香⇒三沢⇒カイザーの順で鍵を取り、各々隠した。

ーーー

十代　ＬＰ　４０００

「俺のターン、ドロー。俺は黒竜の雛を召喚。」

黒竜の雛　ＤＥＦ　５００

「黒竜の雛の効果発動。自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地へ送って手札から真紅眼の黒竜１体を特殊召喚する。来いレッドアイズ！！」

真紅眼の黒竜　ＡＴＫ　２４００

「デュエルモンスターズのルール上１ターン目は攻撃できない。けど俺は魔法カード黒炎弾を発動。真紅眼の黒竜の攻撃を放棄する代わりに貴様に２４００ポイントのダメージを与える。行け、レッドアイズ、黒炎弾！！」

真紅眼の黒竜が紅色の爆風を放つ。そして容赦なく十代を襲う。

「うわぁぁ！！」

十代　ＬＰ　４０００⇒１６００

「うぅ、・・・痛ぇ・・」

「当然、これは闇の決闘。プレイヤーが受けるダメージは現実となる！俺はカードを２枚セットターンエンドだ。」

「はぁはぁ、・・・く、俺のターン、ドロー・・・ハァハァ」

「ふはははは、もう息が上がってるぞ。もう終わりか？」

「うるせぇよ、俺は魔法カード融合でバーストレディとクレイマンを融合、はぁはぁ、来いランパートガンナー。」

Ｅ・ＨＥＲＯランパートガンナー　ＤＥＦ　２５００

〔真紅眼の黒竜の攻撃力を上回った。これで少しは攻撃が防げるはず・・・。〕

「このカードは守備表示の時、守備表示の状態で相手プレイヤーを直接攻撃する事ができる。行け、ランパート・ショット！！」

ちなみに日本ではＥ・ＨＥＲＯランパートガンナーは本当は相手フィールド上にモンスターがいない場合に直接攻撃が出来る。（各国で裁定は異なる。）

「く、がはぁ・・」

ダークネス吹雪　ＬＰ　４０００⇒３０００

「なんだ、お前も痛いんだな・・」

「・・ふん、この程度。」

「ターンエンドだ。」

「俺のターン、俺は針虫の巣窟を発動し、デッキの上からカードを５枚墓地に送る。

「・・自分のデッキを破壊した？」

意味が分からない十代。

「俺のフィールドの真紅眼を生贄に究極のレッドアイズ、真紅眼の闇竜を特殊召喚！！」

真紅眼の闇竜　ＡＴＫ　２４００

「それでも俺のランパートガンナーの方が守備力は上。」

「甘い、真紅眼の闇竜は墓地のドラゴン１体につき攻撃力を３００ポイント上昇させる。さっきのデッキ破壊で墓地に送られたドラゴンは３枚、黒竜の雛と真紅眼の黒竜とあわせて５体。よって真紅眼の闇竜の攻撃力は・・・」

真紅眼の闇竜　ＡＴＫ　２４００⇒３９００

「攻撃力３９００だと！？」

〜まずい、ランパートガンナーを上回った。〜

「まだだ、俺は永続罠、竜の逆鱗を発動。俺のドラゴンは貫通効果を得る。行け真紅眼の闇竜、ダークネス・ギガ・フレイム！！！！」

真紅眼の闇竜は大きな黒い火の玉をランパートガンナーを十代と一緒に焼き尽くす。

「うわぁぁぁぁぁぁ」

十代　ＬＰ　１６００⇒２００

「はぁはぁはぁ」

「ふはははは、これがダークネスの力、貴様などでは太刀打ちできまい。」

十代ＶＳダークネス吹雪ーレッドアイズの恐怖ー（後書き）

第２章初の最強カードは真紅眼の黒竜、最強カードシリーズ初のバニラです。

通常モンスター
星７／闇属性／ドラゴン族／攻２４００／守２０００
真紅の眼を持つ黒竜。怒りの黒き炎はその眼に映る者全てを焼き尽くす。

攻撃力も最上級モンスターとしてはとても低いですが、黒竜の雛、黒炎弾等専用サポートが多数存在する上に闇属性・ドラゴン族・通常モンスターと非常に恵まれたスタータスを持ってます。進化形態や融合体も多数存在し、アニメでは青眼の白竜の対を成すレアカードです。新ストラクチャーのドラゴニック・レギオンに収録されたので興味がある方は買ってみたら？

次回は十代ｖｓ吹雪決着。戦いの勝者は？

ダークネスの正体（前書き）

今回は吹雪との決着です。

どうぞ

ダークネスの正体

「爽児君、明日香ちゃん、早く！」

「ハァハァ楓、状況はどうだ？」

楓は１ターン目から火山の上でデュエルを観戦してた。
十代の芳しくない状況を聞いて明日香は不安になるも、十代を信じることにした。
そして爽児は冷静にフィールドを見つめ、観戦した。

ダークネス吹雪
ＬＰ　３０００
手札　１枚
魔法・罠　なし
モンスター　真紅眼の闇竜　ＡＴＫ　３９００

十代
ＬＰ　２００
手札　３枚
魔法・罠　なし
モンスター　なし

「はぁはぁ・・・・く、・・俺のターン、ドロー！」

闇のデュエルで痛みが現実となっているので十代はいつもとは違う意味で追い込まれてた。

「俺は魔法カード融合回収を発動。墓地の融合とバーストレディを

手札に加える。ハァハァ・・そして俺はバーストレディを守備表示で召喚。」

E・HEROバーストレディ　DEF　800

「カードを1枚セットしてターンエンドだ。」

「ふはははは、俺のレッドアイズの前に成す術がないか？俺のターン、ドロー。まずは魔法カード命削りの宝札でカードを5枚ドロー！！俺は黙する使者を発動。墓地の通常モンスターを守備表示で召喚。俺は真紅眼の黒竜を蘇生する！」

真紅眼の黒竜　DEF　2000

真紅眼の闇竜　ATK　3900⇒3600

「そして俺は手札からトラップ・ブースターを発動。手札の真紅眼の飛竜を捨て手札からメタル化魔法反射装甲を発動し、真紅眼の黒竜に装備。そしてメタル化魔法反射装甲を装備したレッドアイズを生贄にデッキからレッドアイズ・ブラックメタルドラゴンを特殊召喚！！」

レッドアイズ・ブラックメタルドラゴン　ATK　2800

「そして墓地にドラゴン族が貯まったことにより再び真紅眼の闇竜の攻撃力をアップする！」

真紅眼の闇竜　ATK　3600⇒4200

吹雪の前に2体の最上級ドラゴンが並ぶ。

〜さすがだな。召喚条件が厳しいレッドアイズの進化モンスターをあんなに手軽に呼び出すなんてな。〜

爽児は火山の上で感服してた。ちなみに火山の上と言っても岩だらけで実質マグマがある火口は小さく、岩場の方が圧倒的に多いため二人はこんなところから観戦出来る。

「ブラックメタル、雑魚モンスターを粉砕しろ、ダーク・メガ・フレア！！」

跡形もなく女性のＨＥＲＯは消滅する。

「俺はヒーロー・シグナルを発動。デッキからＥ・ＨＥＲＯワイルドマンを守備表示で召喚する。」

Ｅ・ＨＥＲＯワイルドマンＤＥＦ　１６００

「ふん、所詮悪あがき、行け、真紅眼の闇竜、ダークネス・ギガ・フレイム！！！」

先ほど放たれた炎より一層大きい火炎弾がワイルドマンを襲う。

「ターンエンドだ。」

何とかダメージを食らわずに済んだ十代だが、ライフポイントは風前の灯。

「俺のターン、ドロー。俺は天使の施しを発動。カードを３枚ドローして２枚捨てる。俺はＥ・ＨＥＲＯエッジマンを召喚。この時墓

地にいるネクロダークマンの効果で生贄なしで召喚できる。来い、エッジマン！」

Ｅ・ＨＥＲＯエッジマン　ＡＴＫ　２６００

「俺は装備魔法ソード・エッジを発動。装備モンスターの攻撃力を４００ポイントアップさせる。俺はエッジマンに装備！」

Ｅ・ＨＥＲＯエッジマン　ＡＴＫ　２６００⇒３０００

「バトル、エッジマンでレッドアイズ・ブラックメタルドラゴンに攻撃、ソード・エッジ・アタック！」

より鋭くなった剣を装備したエッジマンが鉄の竜を切り裂く。

「くっ、」

ダークネス吹雪　ＬＰ　３０００⇒２８００

「さらにソード・エッジの効果でお前に４００ポイントのダメージを与える。」

エッジマンの攻撃の余波が吹雪を襲う。

「ちっ、」

ダークネス吹雪　ＬＰ　２８００⇒２４００

「カードを1枚セットしてターンエンド。」

「俺のターン、真紅眼の闇竜で攻撃ダークネス・ギガ・フレイム！！」

真紅眼の闇竜が口元に炎の玉を作る。

「俺はエッジ・ハンマーを発動。エッジマンを生贄に相手モンスターを破壊してそのモンスターの攻撃力分のダメージを受けてもらう。そして装備されてたソード・エッジが破壊された時相手に４００ポイントのダメージを与える。行け、エッジ・ハンマー！！」

ダークネス吹雪　ＬＰ　２４００⇒２０００

「俺は速攻魔法ダークネス・アウトを発動する。フィールドの真紅眼の闇竜をデッキに戻し、墓地の真紅眼の黒竜を蘇生する。対象を失ったエッジ・ハンマーは不発だ。」

真紅眼の闇竜が黒い霧となって霧散し、エッジ・ハンマーが空振りする。そして黒い霧が真紅眼の黒竜となってフィールドに現われる。

真紅眼の黒竜　ＡＴＫ　２４００

「ふはははは、これで終わりだ。真紅眼の闇竜でダイレクトアタック、黒炎弾！！」

「俺は墓地のネクロ・ガードナーをゲームから除外、攻撃を無効にする。」

「ちっ、いちいちつまらない小細工を・・・。ターンエンドだ。」

「俺のターン、強欲な壺でカードを2枚ドロー。俺は貪欲な壺を発

動、墓地のバーストレディ、クレイマン、ワイルドマン、エッジマン、ランパートガンナーをデッキに戻し2枚ドロー。俺は魔法カード融合を発動。手札のワイルドマンとエッジマンを融合。来いE・HEROワイルドジャギーマン！！

E・HEROワイルドジャギーマン　ATK　2600

「ワイルド・ジャギーマンで真紅眼の黒竜を攻撃、インフェィニティ・エッジ・スライサー！！」

ダークネス吹雪　LP　2000⇒1800

「俺は速攻魔法融合解除を発動。ワイルドジャギーマンを融合デッキに戻しワイルドマンとエッジマンを特殊召喚！」

E・HEROワイルドマン　ATK　1500

E・HEROエッジマン　ATK　2600

「な、何だと！！」

「これで俺の勝ちだ！エッジマンでダイレクトアタック、パワー・エッジ・アタック！！」

「ぐわぁぁぁぁぁ」

ダークネス吹雪　LP　1800⇒0

エッジマンの攻撃で相手の仮面が真っ二つに破壊される。そしてダークネスの素顔が明らかになる。

「あれは、兄さん？・・・兄さん！」

その後十代に蓄積されたダメージが十代を襲い、十代は気を失った。
人質だった２人も爽児が助け、吹雪を含む４人を保健室まで連れていった。

ーーー

鮎川先生説教を食らったことを除けば保健室は静かだった。その沈黙を破ったのが爆音と誰かの悲鳴だった。

ダークネスの正体（後書き）

今回の最強カードは真紅眼の闇竜！真紅眼の黒竜の進化版ですね。
効果は・・・

効果モンスター
星９／闇属性／ドラゴン族／攻２４００／守２０００
このカードは通常召喚できない。
自分フィールド上に存在する「真紅眼の黒竜」１体を
リリースした場合のみ特殊召喚する事ができる。
このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在するドラゴン族
モンスター１体につき３００ポイントアップする。
（遊戯王カードｗｉｋｉ）より

召喚条件は真紅眼の黒竜に特化したデッキなら簡単。攻撃力上昇効果は単純にして協力。Ｆ・Ｇ・Ｄとフューチャー・フュージョン、仮面竜や軍隊竜みたいなリクルーター、ライトロードや針虫の巣窟などで墓地肥やししましょう。７，８体ぐらい墓地送りにすれば戦闘破壊はほぼ不可能になります。けど弱点として一切の耐性をもってないので除去には注意。

次回はクロノス先生久々の出番。お楽しみに。

クロノスＶＳカミューラ－吸血鬼の猛攻と教員の意地－

十代たちが保健室に運ばれたのとほぼ同時刻

「うわぁぁぁ」

ラー・イエローの生徒　ＬＰ　１３００　⇒０

「うっ、・・痛い・・・・」

「はぁ、話を聞いてなかったの？私はセブンスターズ、闇の決闘をするのよ。ダメージは全て現実のものになる。」

「ふん、あなたも鍵を持ってないのね。さぁ吐きなさい。誰が七精門の鍵を持ってるの？」

そう言いながらイエローの生徒を踏みつける。

「ぎゃぁぁ、し・・・ら・・・な・・・・・・い。」バタッ

「ふん、使えない子・・・これで何人目かしら？」

その女の後ろには大量の生徒が倒れてた。全員池に吸血鬼が現われたとの噂を聞きつけて面白半分でデュエルするも返り討ちにあって瀕死状態になってるのだった。

「せめてあの方も誰が鍵を持ってるのかくらい言ってくれないと困るのは私たちなのに」

「マンママミーア、これは何なノーネ？」

クロノスを筆頭に保健室に見舞いしていたメンバーが集まった。（十代、吹雪、翔、明日香、校長以外）

「ごきげんよう。私はカミューラ、セブンスターズの一人よ。何も、ただデュエルを挑んできたから完膚なきまで潰したまでよ。勿論闇のデュエルでね。文句があるならば私をデュエルで倒してみたら？あら？」

そういって彼女は亮と爽児たちを見て

「ふふふ、あなた達いい男ねぇ。決めた、私のコレクションになってもらおうかしら。そこの二人の内どっちでもいいわ。さぁ私とデュエルしm「ちょっと待つノーネ。」・・・何かしらあなたには用が無いのだけど。見た感じ七精門の鍵も持っていないようだし。

クロノスが遮る。

「その二人は私の大事な生徒なノーネ。二人の鍵が奪いたかったら私を倒してからにするノーネ！！」

「はぁ仕方ないわね。ルールを確認しましょう。勝者は次なる道へ、敗者はこの人形に魂を封じられる。いいわね？」

「ふふーんだ。人形に魂を封じるなんてオカルト私は信じないノーネ。」

「ふふふ、信じなくても今すぐその身を持って味あわせてあげるわ。」

両者は異質なデュエルディスクを構える。

「「決闘」」

「先攻は私、ドロー。私はヴァンパイア・バッツを召喚！」

ヴァンパイア・バッツ　ＡＴＫ　８００

「このモンスターがフィールドにいる限り私のアンデッドモンスターは攻撃力が２００ポイントアップする。」

ヴァンパイア・バッツ　ＡＴＫ　８００⇒１０００

「私はカードを1枚セットしターン終了よ。」

「私のターンのノーネ。ドロー。これとこれで・・私は古代の機械の城を発動なノーネ。」

クロノスの後ろに古い要塞のような城が建つ。

「私は古代の機械兵士を召喚なノーネ。古代の機械の城で攻撃力アーップなノーネ。」

古代の機械兵士　ＡＴＫ　１３００⇒１６００

古代の機械城

カウンター　０⇒１

「バトル、私は古代の機械兵士でヴァンパイア・バッツを攻撃する

ノーネ、」

「うまい、古代の機械兵士の効果で相手は魔法・罠がダメージステップ終了時まで発動できない！」

解説にまわるカイザー

「正解なノーネ。バトル、プレシャス・ブリット！！」

古代の機械兵士の右腕のガトリング銃がヴァンパイア・バッツに撃たれる。

「ヴァンパイア・バッツの効果発動。同名モンスターをデッキから墓地に送り破壊を防ぐ。」

カミューラ　ＬＰ　４０００⇒３４００

「カードを1枚セットしてターン終了なノーネ。」

「私のターン、ドロー。私はヴァンパイア・バトラーを召喚。」

ヴァンパイア・バトラー　ＡＴＫ　１４００⇒１６００

カミューラのフィールドに青白い肌のスーツを着た紳士が現われる。

古代の機械城

カウンター　１⇒２

「ヴァンパイア・バトラーで古代の機械兵士に攻撃。」

「ぬぬぬ、攻撃力は互角で相打ちなノーネ。」

「私はヴァンパイア・バトラーの効果発動。私のデッキからヴァンパイアと名のつくモンスター1体を特殊召喚。私はヴァンパイア・ロードを召喚。」

ヴァンパイア・ロード　ＡＴＫ　２０００⇒２２００

「まずい、まだ相手のバトルフェイズ・・」

「つまり迎撃が出来る。」

「ぬぬぬ、正解なノーネ。」

「ふふふ、口ほどにも無いとはこのことね。弱すぎて相手にもならない。どうせ鍵も持ってないようだしなんなら選手交代でもいいわ。ねぇそこのあなた達、私とやりましょう？」

そういってカミューラは爽児とカイザーを指す。二人はデュエルディスクを取り出すも・・・

「ちょっと待つノーネ！！私の目が黒いうちは私の大事な生徒達には指一本も触れさせないノーネ！！」

クロノス先生が声を張り上げて二人を制止する。

「クロノス先生・・・」

「意地だけは一人前ね。じゃあその目を白くしてあげるわ。まずはヴァンパイア・バッツで攻撃よ。」

ヴァンパイア・バッツが増殖し、クロノスに襲い掛かる。

クロノス　ＬＰ　４０００⇒３０００

「うぅぅ・・・」

「まだ終わりじゃないわよ、行けヴァンパイア・ロード、暗黒の使徒！！」

ヴァンパイア・ロードはマントからコウモリを召喚してクロノスに襲い掛かる。

「うわぁぁぁ」

クロノス　ＬＰ　３０００⇒８００

〜この痛みは本物なノーネ。まさか闇の決闘とは本当に実在するですート？アイタタタ〜　バタッ

コウモリの猛攻撃に耐え切れず倒れてしまう。

「「やっぱ俺が・・・」」

亮と爽児は同時に言い出す。

「ぐぬぬぬぬ、まだまだなノーネ。」

しかし、クロノスは立ち上がる

「だけど今の攻撃でかなりのダメージを受けたはず。それでもまだ闇の決闘なんて無いって言うのかしら。」

「まさにそうなノーネ。私は闇の決闘なんかに屈しない！！」

「そう、何とでも言えばいいわ。いずれ嫌でも屈することになるからね。私はヴァンパイア・ロードの効果を発動。私が宣言したカードの種類をあなたはデッキから１枚墓地に送る。そうね・・・魔法を選択するわ。」

クロノスは古代の機械城をデッキから墓地へ送る。

「ターン終了よ。」

「私のターン、ドロー。私は古代の機械城を生贄に古代の機械巨人を召喚するノーネ。」

古代の機械巨人　ＡＴＫ　３０００

「バトル、私はヴァンパイア・ロードを攻撃、アルティメット・パウンド！」

古い歯車の巨人がその大きな拳でヴァンパイア・ロードを殴る。

「く、」

カミューラ　ＬＰ　３４００⇒２６００

「カードを１枚セットしターン終了なノーネ。」

「小癪な・・私のターン、私は不死の王国ーヘルヴァニアを発動！！」

「へ、ヘルヴァニアですート！？」

「何だ不死の王国ーヘルヴァニアって？」

爽児は聞く。未ＯＣＧカードにはあまり詳しくない。

「不死の王国ーヘルヴァニアとは禁断のフィールド魔法なノーネ。その効果は凶悪極まりないノーネ。」

「よくご存知で。不死の王国ーヘルヴァニアの効果発動。手札のカース・オブ・ヴァンパイアを墓地に送りフィールドの全てのモンスターを破壊。けどヴァンパイア・バッツは同名モンスターをデッキから墓地に送り破壊を免れる！」

ヘルヴァニアの大きな城門が開き、禍々しい風が古代の機械巨人に襲い掛かる。

「終わりよ、ヴァンパイア・バッツでダイレクトアタック！」

ヴァンパイア・バッツが分裂しクロノスに襲い掛かる。

「私は速攻魔法収縮発動。攻撃モンスターの攻撃力を半分にするノーネ。」

ヴァンパイア・バッツ　ＡＴＫ　１０００⇒６００

クロノス　ＬＰ　８００⇒２００

痛みでクロノスが跪く。

「ふん、しぶといわね。ターンエンド。」

〜く、ライフもあとわずか、いっそのことサレンダーするノーネ？〜

リアルダメージのせいでクロノスは消極的な考えをつい持ってしまう。

「クロノス先生頑張れ〜」

そんな時に十代が保健室から抜け出してクロノスを応援しに来てくれた。

「あら、味方はたくさんいるのね。知ってる？たくさん群れる人程弱いのよ。」

「何言ってんだお前。クロノス先生は強ぇぞ。戦った俺が言ってんだ。なぁクロノス先生、すごいデュエル見せてくれよ。」

十代は笑顔で喋りかける。

〜そうなノーネ。私は教員として生徒の笑顔を守るためにも道を開き、光輝く未来を見せてやる義務があるノーネ。何がサレンダー、何が痛み。この身が滅んでも私は生徒達のために全身全霊を尽くすノーネ！！！〜

クロノスはダメージが限界を超えてる。しかし、今彼が両足で立ってられるのは彼自身の教員としての意地と誇りが彼を動かしてるか

らだ。

「さぁ、生徒諸君、これから逆転の仕方の授業をするノーネ！」

クロノスＶＳカミューラ－吸血鬼の猛攻と教員の意地－（後書き）

アニメみたいな熱い話が書きたかったのにｏｒｚ
文章力アップする方法誰か教えてくれないかな？

今回の最強カード改め最凶カードは「不死の王国－ヘルヴァニア」
効果は（推測）

フィールド魔法
手札のアンデッド族モンスターを墓地に送る。フィールド上のモンスターを全て破壊する。

禁断のフィールド魔法ってだけあります。手札から馬頭鬼を墓地に送って蘇生、発動後に生者の書－禁断の呪術－や死者蘇生等で蘇生からの反撃などデメリットもあまり気にならないし、アンデッド族にとってコストはむしろメリットに成り得る場合もあるぐらいですから。一応弱点らしい弱点を挙げるとすればフィールド魔法だから相手に利用される（まぁ最もミラーマッチ以外だったらそもそもアンデッド族モンスターを採用しているほうが少ない）やサイクロン、砂塵の大竜巻などの魔法除去やマジック・ジャマー等のカウンターなど妨害が多いことですかね。

次回はクロノスＶＳカミューラ決着！果たして勝者は・・？

闇は光を凌駕できない

「さぁ、生徒諸君、これから逆転の仕方の授業をするノーネ！」カミューラ

カミューラ
ＬＰ　２６００
手札　４枚
魔法・罠　１枚＋不死の王国－ヘルヴァニア
モンスター　ヴァンパイア・バッツ　ＡＴＫ　１０００

クロノス
ＬＰ　２００
手札　２枚
魔法・罠　１枚
モンスター　なし

「私のターン、ドロー。強欲な壺で２枚ドロー。私はフィールド魔法歯車街を発動、ヘルヴァニアには消えてもらうノーネ！」

不気味な城が崩れ去り、歯車だらけのフィールドに変化した。

「さらに私は魔法カード大嵐を発動なノーネ。フィールドの魔法・罠を全て破壊するノーネ。」

「ふん、馬鹿ね。わざわざ発動したフィールド魔法を破壊するなんて。」

「私は歯車街の効果発動なノーネ。このカードが破壊された時デッ

キから古代の機械と名のついたモンスターを特殊召喚するノーネ。
私は古代の機械巨竜を特殊召喚！」

古代の機械巨竜　ＡＴＫ　３０００

「さらにもう一枚の私のカードは黄金の邪神像。このカードが破壊された時邪神トークンを特殊召喚するノーネ。」

邪心トークン　ＡＴＫ　１０００

「破壊された私のカードは不死族の棺。このカードが破壊された時墓地のアンデッド族モンスターを蘇生。私はヴァンパイア・ロードを召喚する。」

ヴァンパイア・ロード　ＤＥＦ　１５００

「私は邪神トークンを生贄に古代の機械獣を召喚するノーネ。」

古代の機械獣　ＡＴＫ　２０００

「古代の機械獣でヴァンパイア・ロードを攻撃、プレシャス・ファング！」

古代の機械獣がヴァンパイア・ロードに襲い掛かり噛み付く。

「まだなノーネ。私は古代の機械巨竜でヴァンパイア・バッツに攻撃。もうデッキに同名モンスターはいないから破壊無効効果は使用できないノーネ。」

「しまった！」

カミューラ　ＬＰ　２６００⇒６００

「カードをセットし、私はターン終了なノーネ。」

「よしアドバンテージを取り返したぞ。」

「それにライフも大きく削った。」

解説にまわるカイザー&三沢。すると

「もう許さない。完全に潰してやるわ。」

カミューラが激怒し、口が裂けて舌を出した。

〜どうやって喋ってんだ・・・〜

どうでもいいけど皆疑問に思った。

「私のターン、私は生者の書ー禁断の呪術ーを発動。墓地のヴァンパイア・ロードを特殊召喚。」

ヴァンパイア・ロード　ＡＴＫ　２０００

「そしてあなたの墓地の古代の機械巨人を除外。」

クロノスは古代の機械巨人をポケットに入れる。

「私はヴァンパイア・ロードをゲームから除外しヴァンパイア・ジェネシスを召喚！」

ヴァンパイア・ジェネシス　ＡＴＫ　３０００

「終わりよ、ヴァンパイア・ジェネシスで古代の機械獣を攻撃、ヘルビシャス・ブラッド！！」

「私は罠カード攻撃の無力化でバトルフェイズを終了するノーネ。」

「ち、くどいわね。私はターン終了。」

「私のターン、ドロー。私は古代の機械巨竜でヴァンパイア・ジェネシスに攻撃！」

〜古代の機械巨竜とヴァンパイア・ジェネシスの攻撃力は互角。相打ちに持ち込んで古代の機械獣で直接攻撃できれば・・・〜

２体のモンスターの攻撃は相殺し、お互いのモンスターが爆発する。そして古代の機械獣の攻撃が通る

はずだったがフィールドにヴァンパイア・ジェネシスがまだ立っていた。

「な、なぜヴァンパイア・ジェネシスが破壊されてないノーネ！？」

「ふふふ、私は墓地のヴァンパイア・バトラーの効果を発動したのよ。墓地のこのモンスターをゲームから除外することで戦闘によって破壊されたヴァンパイアと名のついたモンスターを召喚条件を無視して特殊召喚する。」

「な、何ですート！？」

「惜しかったわね。」

「ぐぬぬぬぬ、私は古代の機械獣を守備表示に変更。カードを1枚セットしターン終了なノーネ。」

古代の機械獣　ＤＥＦ　２０００

「ふふふ、私のターン。」

「その瞬間私は罠カード召喚封殺を発動するノーネ。お互いのフィールドにモンスターが1体ずつ存在する場合このカードを発動したできる。次の自分のエンドフェイズまでお互い通常召喚が出来なくなるノーネ。」

「ふふふ、そんなものであなたの敗北は免れない。私は手札のヴァンパイア・レディを捨て、ヴァンパイア・ジェネシスの効果発動。手札のアンデッド族を捨て、そのモンスターのレベルより低いレベルのアンデッド族モンスターを蘇生する。私はヴァンパイア・バッツを蘇生。」

ヴァンパイア・バッツ　ＡＴＫ　８００⇒１０００

ヴァンパイア・ジェネシス　ＡＴＫ　３０００⇒３２００

「これで終わりよ。ヴァンパイア・ジェネシスで古代の機械獣を攻撃、ヘルビシャス・ブラッド！！」

「く、生徒達よく見ておくノーネ。デュエルとは青少年に希望と光を与えるもので、恐怖と闇をもたらすものではない。そして闇は光を凌駕できない、そう信じて心を折らないことを約束して欲しいノーネ。」

「勿論だぜ先生！！！」

十代が俺達全員の想いを口に出す。
クロノスは笑みを顔に浮かべる。

「ふふふ、最後の授業は終わったかしら？」

「いつでも来るノーネ！！」

「ヴァンパイア・バッツでダイレクトアタック！！」

ーーー

は万丈目が預かってとりあえず今日は病み上がりの十代を保健室に戻した後全員寮へ帰った。

最初はカミューラへの憤怒や先生のこと、闇の決闘の恐ろしさについて考えてたものも疲れが貯まってたのか、すぐ寝てしまった。

そして次の日・・・

「・・・・招待状か・・」

鍵を持つ7人が保健室（十代がいるから）に集まり、全員がカミューラから彼女の城への招待状を貰っていた。

勿論全員で行くことになり、十代は担いでいった。大徳寺先生は引率（？）としてくることになり、俺達は１１時５０分ぐらいに池で落ち合った。すると赤色の絨毯が城から現われ、俺達は城に入っていった。

「ふふふ、よく来たわね。七精門の鍵を持つ者たちよ。さぁそこのイケメンの二人。私と闇の決闘をしましょう？」

俺とカイザーは事前に話し合い、カイザーがカミューラと戦うことになった。

「お兄さん、死なないよね爽児君？」

翔は泣きそうな顔で爽児に聞いてくる。

「何言ってんだ翔。お前の兄貴は俺だって倒したんだぞ。あんな吸血鬼女なんか瞬殺だって」

俺は必死に翔を励ます。
そんなことをしてる間に二人はデュエル場に上がったようだ。
「ルールは分かるよね。勝者は次なる道へ、敗者はこの人形に魂を封じられる。さぁ私の人形になる覚悟はできた？」
「断る。」
「ふふふ、そういうクールなとこもかわいいわね。」
「悪いが俺にも好みがある。もういいだろう。早く始めよう。」
「「決闘」」
3度目の闇の決闘が今始まった。

闇は光を凌駕できない（後書き）

今回の最強カードは「歯車街」
効果は・・・

フィールド魔法
「アンティーク・ギア」と名のついたモンスターを召喚する場合に必要なリリースを1体少なくする事ができる。このカードが破壊され墓地に送られた時、自分の手札・デッキ・墓地から「アンティーク・ギア」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

フィールドに存在しても迷惑、破壊しても大迷惑な相手にとっては非常に厄介なフィールド魔法です。前者の効果のリリース削減は古代の機械獣等が生贄なしで召喚されると思ったら脅威ですよね。古代の機械巨人も1体のみの生贄であの効果。非常に厄介です。しかし、このカードの真骨頂は破壊された時の効果。このカードで古代の機械巨竜がいきなり召喚できるんです。例えば大嵐でこのカードを破壊した場合、相手にとっては
魔法・罠が全滅＋攻撃反応系の罠が効かないリミッター解除対応の攻撃力３０００モンスターが相手フィールドに召喚
という壊滅的な状態になります。

次回はカイザーＶＳカミューラをお送りします。お楽しみに～

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0820ba/

もう一人の英雄

2012年1月14日16時54分発行